

令和5年度 教育研究所「研究協力員」

実践報告集



研究テーマ

『ICTを活用した

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実』

『児童生徒質問紙(i-check)の活用に関する研究』

	氏名	学校名	実践報告集 掲載ページ
1	永山 覚	浦添市立 牧港小学校	P 3
2	仲里 翼	浦添市立 当山小学校	P 10
3	泉 愛	浦添市立 内間小学校	P 17
4	久我 秀徳	浦添市立 仲西中学校	P 25
5	根間 浩史	浦添市立 仲西中学校	P 32

令和5年度 浦添市立教育研究所「研究協力員」要項

令和5年4月
浦添市立教育研究所

1 基本方針

本県の「学校教育における指導の努力点」においては、「確かな学力の向上」を挙げているところである。本市でも、児童生徒が自ら課題をみつけ、学び、考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する能力の育成を基本とした教育の一層の充実を目指し、「学校教育指導目標」に「確かな学力の向上」を定めている。

令和3年には、文部科学省が示した「令和の日本型教育」では、これまでの日本型教育の成り立ちや成果を踏まえつつ、従来の日本型学校教育を発展させ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を中心的な概念とし、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげていくことが重要と考えられている。それに加え、国が推進するGIGAスクール構想に向け、令和2年度に児童生徒1人1台の学習者用端末が整備し令和3年度から活用を本格化したことで、ICT機器を活用した学習の個別最適化に向けた動きはますます加速している。

また、確かな学力を身につけるためには、児童生徒の「自己肯定感」を高め、学習意欲の向上を図るとともに、他者との関わりを豊かにして学習集団の向上を図る必要がある。

本事業では、ICTの新たな可能性を生かした「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実と、本研究所調査事業である「児童生徒質問紙(i-check)」を学力向上に生かす活用について実践研究を深め、その成果をまとめ、市立小中学校へ実践資料を提供する。

2 委託研究テーマ

小学校：ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

中学校：①ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

②児童質問紙(i-check)の活用に関する研究

※中学校は、①②のどちらかを選択して研究する。

3 研究内容

(1) テーマに沿った授業実践、または職員が行った実践の情報収集(～9月)

(2) (1)で得られた情報をもとに授業実践を行う。

① 事前・事後に児童生徒の実態調査を行い、児童生徒の変容を見取る。

② その他、レディネステストや、形成的評価、パフォーマンス評価などを組み込み、児童生徒の変容をはかる。

※報告書等は、当研究所ホームページに掲載し、市立小中学校で実践の参考とする。

4 提出物について

(1) 形式

- ・指導案：A4用紙（那覇教育事務所様式）にまとめる。
- ・報告書：A4用紙（様式有）に、成果と課題、研究の考察をまとめる。
【実践授業の写真や変容を見取ることができる表や図等を挿入する】
- ・プレゼン資料：15～20分で発表できるプレゼン（パワーポイント等）を作成する。
また、プレゼン動画を市立小中学校教諭に向けて限定配信を行なう。

(2) 提出・・・・・・・・電子媒体（Teamsかe-mailで提出）

5 研究協力員

- (1) 令和5年度担当5校（別添資料参照）から、研究協力員1名を推薦する。

【牧港小、当山小、内間小、仲西中、神森中】

- (2) 任期は、令和5年4月28日から令和6年3月31日までとする。

6 研究日程(予定)・・・・・・・・別添実施計画参照

- 1回目 4月28日(金) 趣旨説明、研究協力員の委嘱、学校機器整備の紹介等
- 2回目 10月11日(水) 進捗状況報告、データ分析、指導案作成等
- 3回目 11月 8日(水) 進捗状況報告、指導案作成等
- 4回目 1月17日(水) 実践発表①(授業終了者数名)、報告書作成等
- 5回目 2月 9日(金) 実践発表②、その他

※ 研究の時間は1回目を除き、原則として17:00～19:00（2時間程度）。（謝金有り）

7 謝礼金について

研究協力員の謝礼金は、1時間3,500円とする。【2～5回具】

8 その他

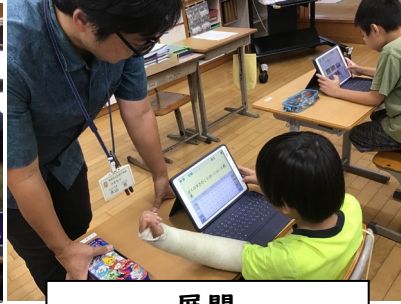
- (1) 研究に必要な書籍は、教育研究所・図書室で購入し、貸出する。
- (2) 授業実践に伴う、雑費等はなし。日常の教育実践の範囲内で行う。

学校名	浦添市立牧港小学校	報告者氏名	永山 覚															
I 児童生徒の実態																		
<p>1. 実施学年 ひまわり学級（1年、4年、5年、6年）</p> <p>2. 児童数 男子： 7人 女子： 1人 計： 8人</p> <p>3. 教科 自立活動（大好きなもの・とくいなことしょうかい）</p> <p>4. ICT を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に関する児童の実態(事前)</p> <p>① 4年生の国語の学習で、辞書で調べた慣用句等をロイロノートでまとめた。 （個別最適な学び）</p> <p>② 6年生の総合の学習修学旅行の振り返り新聞のまとめ方を大きな新聞用紙に書くか、ロイロノートでまとめるかという自己選択を行った。 （個別最適な学び）</p> <p>③ 5年生は5人いるため、国語や算数の学習課題をお互いに教え合いながら進めた。 （協働的な学び）</p> <p>●事前アンケート【人前での発表、ICTの活用について】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>質問</th> <th>はい</th> <th>いいえ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>みんなのまえて、じこしょうかいをすることができますか？</td> <td>5人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>べんきょうにアイパッドをつかいたいですか？</td> <td>6人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>ローマジで、もじがにゆうりょくできますか？</td> <td>6人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>ロイロノートをつかうとたのしいですか？（未回答1人）</td> <td>7人</td> <td>0人</td> </tr> </tbody> </table>				質問	はい	いいえ	みんなのまえて、じこしょうかいをすることができますか？	5人	3人	べんきょうにアイパッドをつかいたいですか？	6人	2人	ローマジで、もじがにゆうりょくできますか？	6人	2人	ロイロノートをつかうとたのしいですか？（未回答1人）	7人	0人
質問	はい	いいえ																
みんなのまえて、じこしょうかいをすることができますか？	5人	3人																
べんきょうにアイパッドをつかいたいですか？	6人	2人																
ローマジで、もじがにゆうりょくできますか？	6人	2人																
ロイロノートをつかうとたのしいですか？（未回答1人）	7人	0人																
II ICT を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に関する授業について																		
<p>1. 内容</p> <p>(1) 手だて</p> <p>① 人前での発表（自己紹介）に自信を持たせるため、「自分の好きなこと」をロイロノートのカードとして作成し、発表への準備をさせる。</p> <p>② 1年生～6年生までの異学年集団のため、文字入力方法にばらつきが見られる。ローマ字やかな、音声、教師の入力補助等の方法を自己選択させる。</p> <p>③ 学習の進んでいる児童にミニティーチャーとして活躍させる。</p> <p>(2) 工夫した点</p> <p>① ICT 機器（児童用 iPad、電子黒板、大型テレビ）を活用し、クイズやめあて等を提示することで、児童が興味を持って視覚的に理解できるようにする。</p> <p>② 教師の好きなものカードを「良い例」と「良くない例」の2パターン準備して提示することで、良いまとめかたについて気付かせる。</p> <p>③ カードの型枠を準備しておき、活動が進まない児童に提供できるようにする。</p> <p>④ 協働的な学びを促すために、話しやすい・動きやすいように場を設定する。</p>																		

●授業の様子（第2時・第3時）



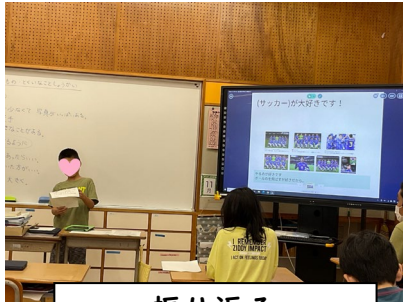
導入
(つかむ・見通す)



展開
(活動する(個別))



展開
(個人→全体共有)



振り返る
(個人→全体共有)



追加
(活動する(協働))



追加
(活動する(協働))

2. 変容（事後アンケートから）



みんなのまえで、じこしょうかいをすることができますか？

↓
発表資料を準備することで、ひまわり学級では堂々と発表できた。
しかし、協力学級での発表には自信がなく、苦手という消極的な意見となった。



べんきょうにiPadをつかいたいですか？

↓
iPadを使い学習することで、分からないことを調べたり、自分の思いや考えを手軽に表現したりすることができるため、全員が使いたいという思いになっている。

事後アンケートの結果では、事前アンケートと比較して改善した事項もあるが、逆に課題となった事項もあった。

3. 全体考察

児童各自の得意・不得意や学習状況、iPad の活用能力を配慮することで、その児童にとっての個別最適な学びを支援することができた。また、場の工夫やグループ活動を取り入れることで協働的な学びを促すことができた。協力学級で自信を持って自己紹介することへの課題が残るものの、知的特別支援学級で ICT を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業実践ができた。

特別支援学級

知的学級 自立活動学習指導案

令和5年11月30日 5校時

牧港小学校 ひまわり学級

8名(1年:1名, 4年:1名,
5年:5名, 6年:1名)

指導者 永山 覚

1 題材名 「大好きなもの・とくいなことしようかい」

2 児童(または生徒)について

	児童の実態	区分	項目
A	1年生。ひらがな読み書き学習中。発音が不明瞭。交流学級での学習に参加できないことがある。	2 心理的な安定	(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事
B	4年生。学習の凸凹有。シナリオがあれば人前でも司会ができる。	3 人間関係の形成	(3)自己の理解と行動の調整に関する事
C	5年生。漢字の学習は比較的得意。環境の変化が苦手で、無言になり固まることがある。	2 心理的な安定	(2)状況の理解と変化への対応に関する事
D	5年生。意図が分からない時、失敗しそうな時に他者の働きかけに反応できなくなる。	3 人間関係の形成	(3)自己の理解と行動の調整に関する事
E	5年生。穏やかで、野球が好き。人前での話は緊張して上手くしゃべれない。	2 心理的な安定	(2)状況の理解と変化への対応に関する事
F	5年生。会話の内容を理解できていないことがある。人前でもよく話をする。	6 コミュニケーション	(1)コミュニケーションの基礎的能力に関する事
G	5年生。病弱学級から一時的に移籍。自分から誰とでもよく話をする。場の状況に合わない発言をすることもある。	6 コミュニケーション	(5)状況に応じたコミュニケーションに関する事
H	6年生。昨年5年生の時から入級。学習意欲は低く、低学年の学習でつまずく。好きな話題はよく話す。	2 心理的な安定	(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事

3 題材について

普段、友だち同士で話をしている時には、何も気にせずに気軽に話ができるが、改まって人前に立つと緊張や不安で声が小さくなってしまったり、全くしゃべることができないことがある。台本等の決まっている文章があると人前で全体の司会をすることができる一方、話す内容を自分で考えながら話すことはいくつもの処理を平行しながら行うため難しいことでもある。本題材は、自分の「大好きなもの」や「とくいなこと」という、それぞれの児童自身で興味・関心がある内容を扱うことで、学習への意欲を持って取り組むことができる。また、一度作成したものは今後必要な時に修正して使用したり、場合によってはそのまま利用することができるものとなる。同じ方法で、別のテーマに変えることで、応用して別の学習にも使うことができる。

4 指導について

「自己紹介をしよう!」と学習を進めてしまうと否定的に反応したり、形式的に終わらせようとするのが予想される。そのため、自己紹介の中で名前の紹介と同じくらい大切な内容である「自分の好きなことや得意なこと」を先に取り上げてまとめるようにする。学習を進めるための道具としてICT機器を使用し、デジタルデータとして保存・活用するが、ローマ字でのタイピング入力に慣れていない児童もいる。そのため、紙媒体に記述したものを写真で撮影しても良いし、文字を音声入力で行っても良いというように児童に自己決定させて活動に取り組ませる「個別最適な学び」を意識した指導を行う。また、作成途中は児童も調べ方やまとめ方に困って質問してきたり、操作へのヘルプを求めることが予想される。その際、ICT機器の操作が得意な児童が活躍したり、学習の進んでいる子をミニティーチャーの役割として活躍させたりするようにし、教師は全体を見ながら良いまとめ方をしている児童を認めて声かけしたり、児童と児童をつなぐような指導を行いたい。また、作成途中のもので全体共有して、良い点や改善点等をみんなで考える「協働的な学び」も行う。

5 児童（または生徒）の特性に配慮した指導の工夫

- ・発音が不明瞭の児童がおり、音声入力で支障がでる場合には教師が文字入力を代行する。
- ・どうして良いかわからず活動が進まない児童のために、テンプレートの準備をしておく。
- ・漢字変換で複数候補が出る場合、どの漢字を使用するかは教師が指示する。
- ・文字入力にこだわらず手書き文字や画像・動画の活用等、児童のやりやすい方法を選択させ支援する。
- ・楽しく取り組む雰囲気を大切に、細かい見栄えの修正や内容に懲りすぎないように声かけをする。

6 本時について

(1) 全体目標

- ・大好きなものやとくいなことをロイロノートのカードにまとめることができる。
- ・仲間同士で教え合ったり、自分から聞いたりしながら楽しく活動する。

(2) 個人目標

A	文字入力やまとめ方を仲間や教師に手伝ってもらいながら課題に取り組む。
B	かな入力行い、お手本や仲間のまとめ方を参考にしながら課題に取り組む。
C	ローマ字入力を行い、仲間と教え合いながら課題に取り組む。
D	かな入力行い、仲間と教え合いながら課題に取り組む。
E	かな入力行い、仲間に手伝ってもらいながら課題に取り組む。
F	かな入力行い、仲間と教え合いながら課題に取り組む。
G	ローマ字入力を行い、仲間と教え合いながら課題に取り組む。
H	かな入力行い、仲間と教え合いながら課題に取り組む。

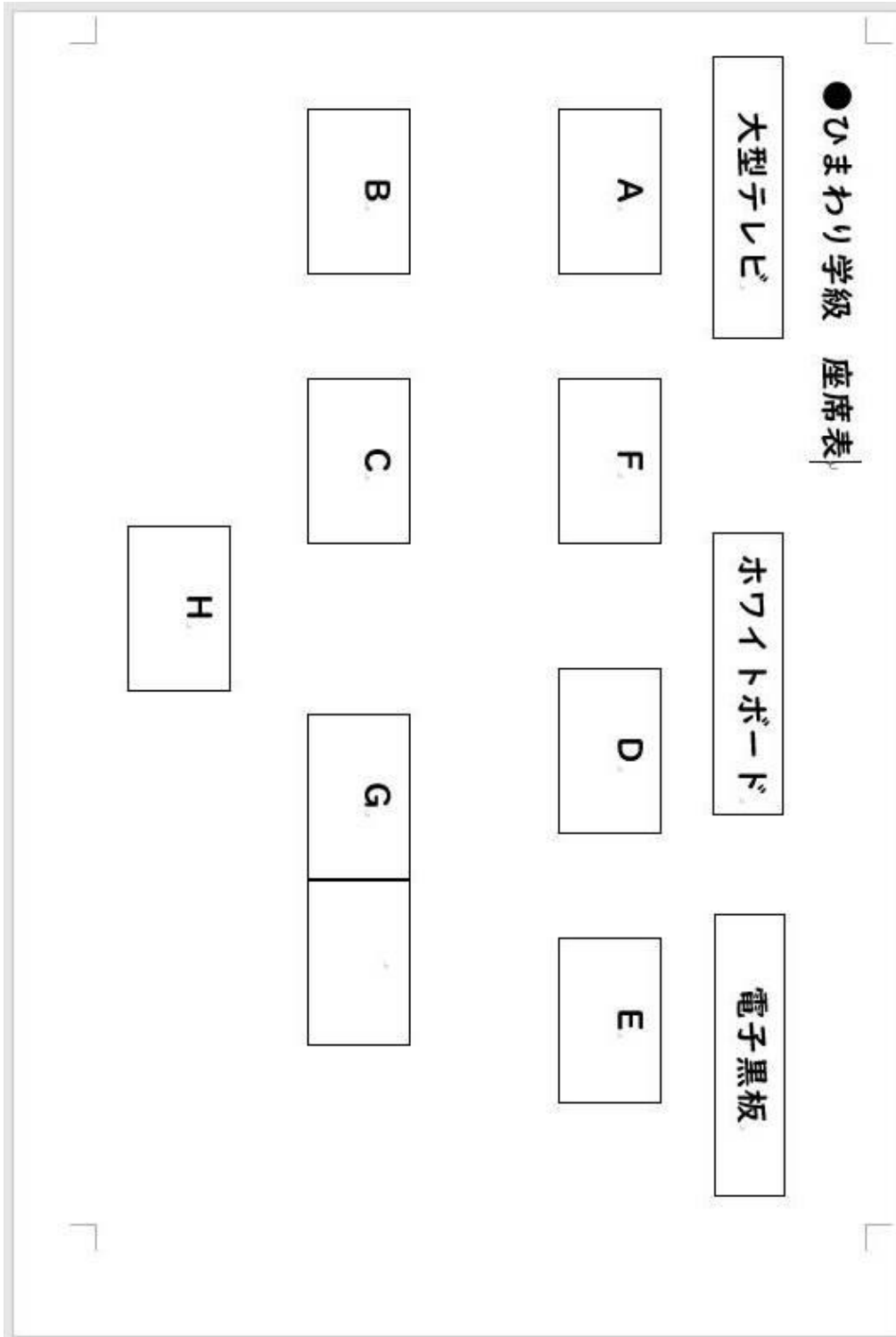
(3) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点 (○), 個への対応 (◇), 評価 (◎)		
		A 児, B 児	C 児, D 児, E 児, F 児	G 児, H 児
つか 5分	1 本時の学習内容を知らせる	○大好きなものやとくいなことをロイロノートのカードにまとめることを知らせる。 ◇分からないことは教え合ったり、聞いたりして良いと伝えて安心させる。		
	2 本時のめあてを確認する	○めあての提示 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">教え合いながら、大好きなものや得意なことをロイロノートのカードにまとめよう。</div>		
見 通 す 5分	3 先生の好きなもの紹介	○2パターン用意して、1つは文字中心で写真が小さいもの、もう1つは写真を大きくして、文字を短くまとめたものを比べて見せる。どこが良いのかを児童に気づかせて、全体で共有して課題を見通す。		
	4 ロイロノートの準備	○タブレットを開いて、ロイロノートの準備をさせる。みんなが準備できているかをお互いで確認させる。教師も全員の画面を確認する。 ○時間の見通しや途中でも最後にふり返りをして終わることを話す。		
活 動 す る 25分	5 ロイロノートのカード作成	◇A 児の文字入力や操作を教師が手伝う。 ◇B 児の活動が検索だけで終わらないように見守りや声かけする。(様子を見て必要ならテンプレートを提供)	◇ローマ字・かな入力が難しい場合には音声入力も勧める。 ◇活動が進んでいる児童か教えてもらうように声かけする。	◇何についてまとめるか、検索するまで止まっていないか確認する。 ◇操作等で困っている児童に教えてあげるよう声かけする。
	6 みんなのカードを共有	○カードが1枚できた児童のものを電子黒板に写し、全体共有する。 ○どこが良いか、またはどうすればもっと良くなるかを発表させる。		
		◎楽しんで活動することができる【観察】	◎仲間同士で教え合ったり、自分から聞いたりしながら楽しく活動することができる【観察】	
	○1枚は仕上げるように声かけしながら、全体を見回る。 ○早くできている児童については、2枚目や3枚目等の作成を促す。			

振り返る10分	7 今日の活動を振り返り	○今日の活動のふり返りをワークシートに書いて、写真を撮ってロイロノートで提出させる。 ◇丸つけて評価できる項目と、記述のふり返りを用意しておく。 ◇他の児童の良かった所も評価できるようにする。
		◎個人目標ができているか【ワークシート】
		○電子黒板にふり返りのワークシートを表示する。 ◇発表できる児童は、自分でふり返りを発表させる。発表が難しい場合には、教師が読み上げて全体に共有する。













7 その他

- 座席表とふりかえりワークシート



だいす 大好きなもの・とくいなこと ふりかえりシート

が 月 ち 日 ねん 年 くみ 組 ばん 番 なまえ 名前 _____

<small>かつどう</small> <small>ふ</small> <small>かえ</small> 活動の振り返り	<small>じ</small> <small>こ</small> <small>ひょうか</small> 自己評価
<small>だいす</small> 大好きなもの・とくいなことを書くことができましたか。	  
<small>わ</small> <small>じぶん</small> <small>き</small> 分からないことを自分から聞くことができましたか。	  
<small>がっきゅう</small> <small>なかま</small> <small>おし</small> ひまわり学級の仲間に教えることができましたか。	  
<small>つか</small> <small>たの</small> アイパッドを使って楽しくできましたか。	  

① きょう かつどう じぶん なん
 今日の活動で自分のがんばったことは何ですか？

② きょう かつどう ひと なん
 今日の活動でほかの人ががんばっていたことは何ですか？

じぶん きも
 ♥ 自分の気持ちに ピッタリことば ♥

楽しい。うまく書けなかったけどがんばった。気になった。もっとやりたい。
 おもしろい。はずかしい。うれしい。どきどきした。きんちょうした。びっくりした。
 まねしてみたい。やってみたい。

学校名	浦添市立当山小学校	報告者氏名	仲里 翼		
I 児童生徒の実態					
1. 実施学年 5年					
2. 児童数 男子：13人 女子：17人 計：30人					
3. 教科 算数					
II ICT を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に関する授業について					
1. 内容					
工夫・手だて					
① 「個別最適な学び」と「協働的な学び」ではグループで学習を進め、必要に応じて他者と交流して課題解決に取り組ませる。					
② 共通の課題に対して個々が必要に応じた学習方法を選択し、指導の個別化を図り、学習内容の確実な定着を目指す。					
③ 問題作りや練習問題を自分で選択して取り組むことで、学習の個性化を図り、本時においての深い学びを目指す。					
④ ロイロノート上での着目ポイント（見方・考え方）の共有や児童の解説動画の閲覧、スムーズな課題や解答のやり取りのために、ICT（電子黒板、タブレット）を活用する。					
⑤ 黒板と電子黒板を自由に使えるようにし、学び合いの場を提供する。					
⑥ 各グループで授業のまとめを行い、学んだことを言語化させる。					
2. 変 容（事後アンケートから）					
ICTに関するアンケート（12月）			肯定的回答		
			事前 事後		
①ICT（電子黒板やタブレット）を使うと学習への興味や関心が高まり、積極的に学習に取り組めると感じますか。（主体的）			76.7% 79.3%		
②話し合う時や考えを共有する時などにICT（電子黒板やタブレット）を使うことは、友達や先生と活発に意見をやり取りすることに役立っていますか。（対話的）			96.7% 96.5%		
③グループで活動したり話し合ったりするときにICT（電子黒板やタブレット）を使うことは、友達のいろいろな考えを知り、学習を深めることに役立っていると感じますか。（深い）			100% 96.5%		
算数の授業に関するアンケート（12月）		肯定的回答		否定的回答	
⑥授業の進度（進みぐあい）はどうか？（個別最適）		事前	事後	事前	事後
		75.9%	72.4%	早い 10.3%	早い 20.7%
				遅い 13.8%	遅い 6.9%
⑦友だちと一緒に学習を進めることは？（協働的）		89.7%	93.1%		
① 算数は好きですか？		34.5%	44.8%		

ほとんどのアンケートで数値の大きな変化は見られないが、授業の進度が早いと回答した児童が 10.3%から 20.7%に変化した。考えられる理由としては、「単分量あたりの大きさ」や「割合」といった多くの児童が難しいと感じる単元で、解決できた課題が少なかったり、理解に時間がかかってしまったりしたといったことが考えられる。

3. 授業の様子

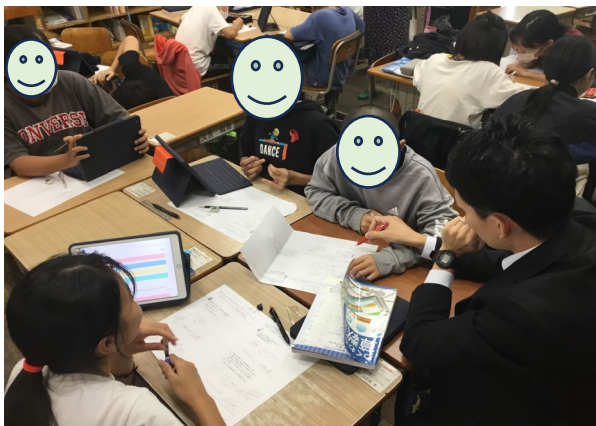


写真1：教師から教えてもらう様子

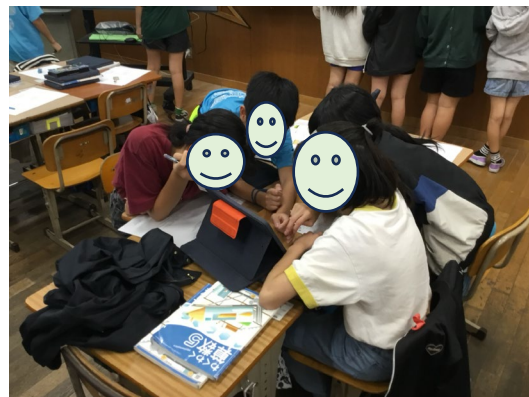


写真2：友達と解説動画を視聴する様子

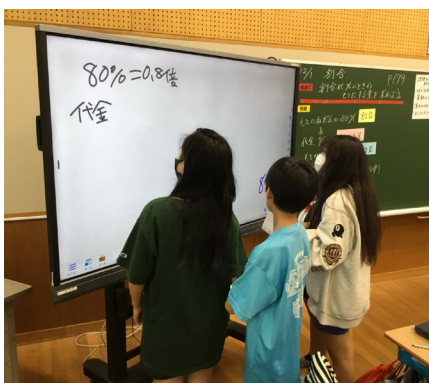


写真3：電子黒板を活用して教え合う様子

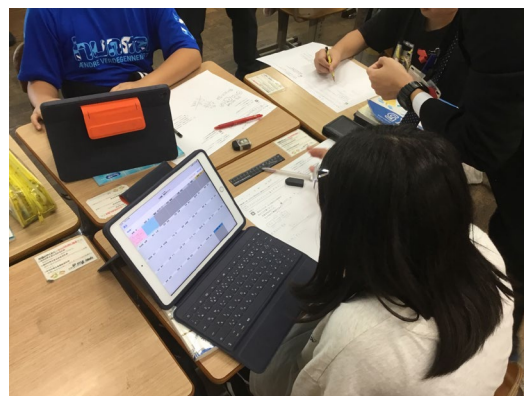


写真4：ロイロノートで友だちの考え方をしている様子

4. 全体考察

ICT を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業実践を行うなかで、自分のペースで学んだり友達と共に学んだりすることを通して、算数を好きになった児童が増えた。また、友達と一緒に考える授業に対しては、肯定的な感想が子どもから多くあがった。（下記参照）

- ・楽しいし、みんなにじゃなくて一人に教えてくれるから分かりやすい。
- ・友達とやると算数をもっと楽しくなる。
- ・分からない所があると、一緒に考えられて、答えを出せる。
- ・いろんな意見が聞けて面白い。

今後の授業スタイルでは、一斉授業を望む児童も複数いるため、今後も授業のねらいや内容によって一斉にするかグループ学習（「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業）にするかを判断し、単元をデザインしていきたい。

第5学年 算数科学習指導案

令和5年12月1日(金)5校時

当山小学校 5年2組 30名

指導者 仲里 翼

【年間指導計画 (5) 学年 (12) 月計画】

1 単元名

「割合」

2 単元の目標

(1)割合の意味と表し方を理解し、百分率などを用いて数量の関係を正しくとらえて計算処理することができる。

(知識及び技能)

(2)割合を用いて、数量の関係を考えたり、比較したりすることができる。また、割合の和や差、積を考えて問題を解くことができる。

(思考力、判断力、表現力等)

(3)割合で考えたり比較したりすることのよさを知り、これを用いて数量の関係を判断しようとする。

(学びに向かう力、人間性等)

3 単元について

(1) 教材観

二つの数量の関係を割合を用いて比べるとは、二つの数量のうちの一方を基準にする大きさ1(基準量)としたときに、もう一方の数量(比較量)がどれだけ(何倍)に相当するのかを比較量を基準量で割った商で比べることである。この表された数(商)が割合である。割合の学習については、第4学年では、基準量を1とみたときに、比較量が基準量に対する割合として2倍、3倍、4倍などの簡単な整数で表される場合について学習している。そして、基準量の異なる二つの数量の関係どうしを割合を用いて比べる場面で、得られた割合の大小から判断をしたり、割合を用いて計算をした結果から問題を解決したりしている。本単元では、割合が小数で表される場合に考察の対象を広げ、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることや百分率について理解するとともに、二つの数量の関係に着目し、図や式などを用いて二つの数量の関係どうしの比べ方を考察し、日常生活に生かす力を伸ばしていくことをねらいとしている。

(2) 児童観

6月にICTに関するアンケート、10月に算数の授業に関するアンケートを実施した。下記がその内容と結果になる。

ICTに関するアンケート(6月)	肯定的回答	否定的回答
①ICT(電子黒板やタブレット)を使うと学習への興味や関心が高まり、積極的に学習に取り組めると感じますか。	76.7%	23.3%
②話し合う時や考えを共有する時などにICT(電子黒板やタブレット)を使うことは、友達や先生と活発に意見をやり取りすることに役立っていますか。	96.7%	3.3%

③グループで活動したり話し合ったりするときに ICT (電子黒板やタブレット) を使うことは、友達のいろいろな考えを知り、学習を深めることに役立っていると思いますか。	100%	0%
④ICT (電子黒板やタブレット) を使った学習は分かりやすいですか。	96.7%	3.3%

算数の授業に関するアンケート(10月)	肯定的回答	否定的回答	
⑤算数が好きですか	34.5%	65.5%	
⑥授業の進度(進みぐあい)はどうですか?(個別最適な学び)	75.9%	早い 10.3 %	遅い 13.8 %
⑦友だちと一緒に学習を進めることは?(協働的な学び)	89.7%	10.3%	

⑤の理由としては、「計算が苦手」、「文章が苦手」などがあつた。⑥の結果から2割の児童が今の一斉授業の進度に合っていないと感じていることが分かつた。⑦理由としては、「分かりやすい」、「友だちの考えを知りたい」、「分からない時に気軽に聞ける」などがあつた。また、「⑧これからやりたい授業スタイル」に関しては、「グループや友だちと一緒に考える授業」が47.5%、「自分のペースで進められる授業」が27.5%、「先生が中心になって教える授業」が25%という結果になつた。

以上のアンケート結果より、児童はタブレットや電子黒板などのICTを活用することに意欲的であり、学習の役に立っているという実感があることが分かつた。また、このことから、自分で学習を進めたり、グループで教え合ったりする授業を好む児童が多数いる一方、一定数は「教師主導の一斉授業」を好む児童もいることが分かつた。そのことから、ICTの活用を前提とし、授業のねらいや内容によって一斉にするかグループ学習にするかを判断し、単元をデザインしていきたい。

(3) 指導観

指導にあたっては、導入で問題提示した際に、「割合が百分率になっていて、そこから基準量や比較量を求めなくてはいけない」という難しいポイントを確認する。その後めあてを児童と作成したあと、それぞれの学び方での学習に移る。グループ学習では、それぞれの選択した学び方で問題解決に取り組んでいく。そこでは、すぐに理解できる児童と時間がかかる児童が混在すると予想される。教師がその繋ぎ役になり、児童同士で教え合えるよう声かけを行っていく。また、課題解決に時間がかかっている児童への支援としては、ロイロノートで共有している、他の児童が提出した着目ポイント(ヒント)を参考にしよう声掛けをしていく。単元を通して、自分の考えや納得した友だちの考えを、着目ポイント(課題を解決する上での見方考え方)として、言語化し記述や説明できるよう支援・指導していく。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを理解している。 ②百分率を用いた表し方を理解し、割合などを求めることができる。	①日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係との比べ方を考察し、それを日常生活に生かしている。	①二つの数量の関係について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めてねばり強く考えたり、数学の良さに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとしていたりしている。

5 単元の指導と評価の計画(9 時間)

時	ねらい	評価規準 (評価方法)		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 一斉	・定員と比べて希望者が多いのはどれかを考えることを通して、単元の課題をつかむ。 ・割合の意味について理解し、割合を求めることができる。	○知① (ノート・タブレット・発言・行動観察) 割合の意味について理解し、割合を求めたり割合で比較したりすることができる。		
2 一斉	全体と部分、部分と部分という関係をとらえ、割合を求めることができる。	○知① (ノート・発言) 関係図や線分図を使って割合を求めることができる。		
3 一斉	全体と部分という関係をとらえ、基準量と割合から比較量を求めることができる。			○態① (ノート・観察) 全体と部分の関係を図に表し、基準量と割合から比較量を考えようとしている。
4 個別	全体と部分という関係をとらえ、比較量と割合から基準量を求めることができる。		○思① (ノート・発言) 図を使って考えたり説明したりしている。	
5 一斉	百分率について知り、百分率と小数倍との関係について理解する。 割合を求め、百分率で表すことができる。	○知② (ノート・発言) 百分率の意味を理解している。		
6 個別 (本時)	百分率を使った問題で、基準量や比較量を求めることができる。		○思① (ワークシート・タブレット・行動観察) 関係図や線分図などを使って百分率を小数倍にして考えたり、説明したりしている。	
7 個別	百分率の増減が示された問題で、比較量を求めることができる。			○態① (ノート・観察) 割合の増減を図に表し、基準量の何倍が比較量になるかを考えようとしている。
8 個別	百分率の増減が示された問題で、基準量を求めることができる。		○思① (ノート・発言) 割合の増減を図に表し、基準量の何倍が比較量になるかを考えたり、説明したりしている。	
9 個別	学習内容の理解を確認する。	○知① (ノート・観察) 割合を表す小数と百分率を理解している。		

※一斉：一斉授業，個別：個別最適な学び・協働的な学び

6 本時の学習【6/9 時間】

(1) 目標

百分率を使った問題で、基準量や比較量を求めることができる。

(2) 本時の授業の工夫・手立て

- ①前半では共通の課題に対して、個々が必要に応じた学習方法を選択し、他者と協働しながら課題解決に取り組むことで、指導の個別化を図り、学習内容の確実な定着を目指す。
- ②後半では問題作りや練習問題に取り組むことで、学習の個性化を図り、本時における深い学びを目指す。
- ③着目ポイント（見方・考え方）の共有や児童の解説動画の閲覧、スムーズな課題のやり取りのために、ICT（電子黒板、タブレット）を活用する。

(3) 展開

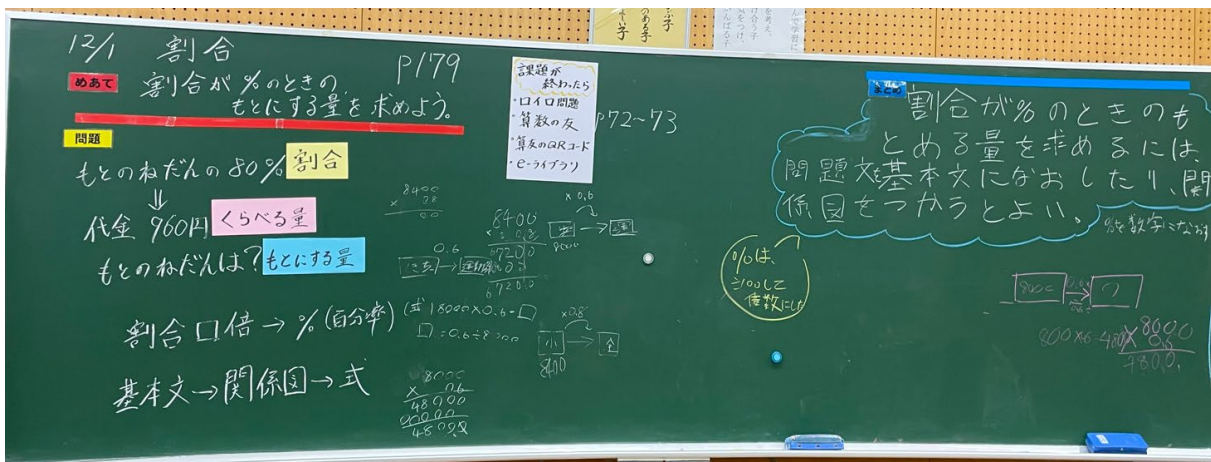
過程	学習活動	○指導上の留意点 ★予想される児童生徒の反応	評価規準 (評価方法)
導入 (5)分	1 問題提示 ・プリント配布 or 問題のみ 配付 →児童が自分で選ぶ。 あおいさんは、もとのねだんの80%で手ぶくろを買いました。代金は960円でした。もとのねだんは何円ですか。	○児童の素直な反応を拾い、問題の難しいポイントの確認をしていく。 ★%の問題だ。 ★もとの値段ということは割合のもとにする量のことかな？ ★もとよりは安くなっている。 T.昨日習った%を使った割合の問題なんですね。	
展開 (32)分	2 めあて <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">割合が%（百分率）で表される時のもとにする量を求めよう。</div> 3 グループを作り、それぞれで問題解決に取り組む。 4 解いた問題を参考に問題作りか、練習問題に取り組む。	○着目ポイント（問題を解く上でのポイント）を見つけたら、ロイロノートに提出すると、全体に共有される。 ★予想される学習スタイル ・自分で黙々と ・友だちと教え合い ・教科書を見る ・スマートレクチャーで解説動画 ・友だちの着目ポイントをヒントにする 【「努力を要する」状況と判断される児童生徒への支援】 ・ロイロノートで共有している、他の児童が提出した着目ポイント（ヒント）を参考にするよう声掛けをする。 ○プリント問題の解答はロイロノートで送る。	【思①】 概ね満足できる 状況 (図や式、友だちの考えなどを使って考えたり説明したりしている。)

終末(8)分	5 まとめ	割合が%の時も、関係図や線分図を使ってもとにする量や比べる量を求めることができる。(計算では%の数字を÷100して使う!)
	6 振り返り	○専用の振り返りシートに本時の振り返りを書く。 ★%が出てきた時は、計算できるか不安でしたが、割合の倍数に変えると、計算することができました。100%を越えるものがあるのか気になりました。

7 本時の評価の「おおむね満足できる」状況の具体例

自分に合った学び方を選択し、友だちに教えたり、教えてもらったことを活用したりして、百分率を使った問題でも基準量や比較量の求め方を理解し、自分の言葉で着目ポイント（見方考え方）を書いている。

8 実際の板書



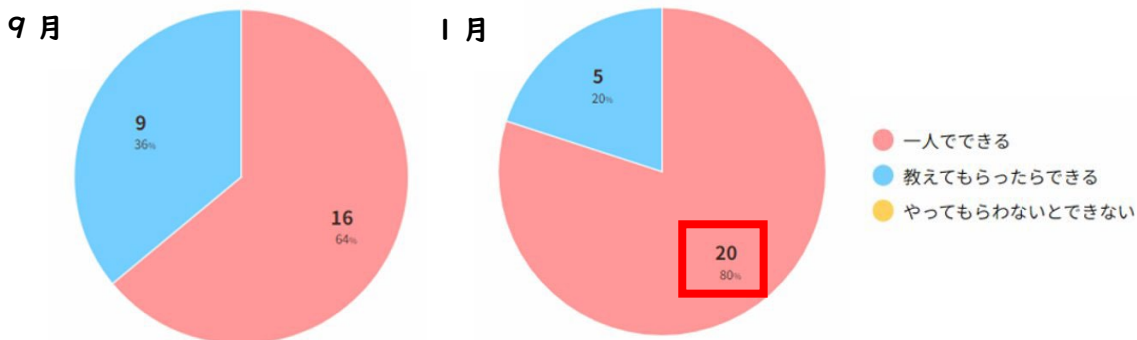
学校名	浦添市立内間小学校	報告者氏名	泉 愛
I 児童生徒の実態			
1. 実施学年 2年			
2. 児童数 男子：12人 女子：15人 計：27人			
3. 教科 体育			
4. ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に関する事前アンケートの結果と分析(例)			
<p>○タブレットを使うことは、児童にとって楽しいことで、体育の授業では自分のできたことや見つけたことを見てもらいたい、友達の撮った動画を見たいと考えている児童が半数に上ることが分かった。</p> <p>→タブレットを使った学習は、低学年でも楽しさを感じているため、どの単元でどのように使っていけるかを提案していきたい。</p> <p>○タブレットを使って学習する楽しさを感じている反面、それを使って友達と話したり教え合ったりすることまでは至っていない。</p> <p>→友達と学習することをあまり好きではないと回答している児童もいるため、タブレットを話し合いのツールとして使っていけるよう、2年生でできることを考えていく必要がある。</p> <p>○ロイロノートを使って全員が「1人でできること」は写真や動画を提出することであった。送られた動画を学習に使うことや自分が見つけたことを紹介するやり方は60%の児童が一人でできると回答している。40%の児童が「できない」と回答しているため、担任の予想よりも低い結果であった。</p> <p>→協働的な学びを通して、タブレットを使った様々な活用が1人でできるようにしていきたい。</p> <p>○本校の先生を対象に行ったタブレットについてのアンケートでは、課題として「安全面からタブレットをどこに置いて学習するとよいのか」ということや「どのタイミングで使っていけばよいのか」などといった疑問が挙がった。また、「見つけた工夫を児童が共有しながら学習を進めている授業を参観したい」という意見もいただいた。</p> <p>→どの学年でもタブレットを活用し、児童が楽しんで取り組むことができる体育の学習を目指し、ICTの活用と共有方法の工夫などに取り組んでいきたい。</p>			
II ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に関する授業について			
1. 内容			
(1) 手だて			
①基になる動きの提示			
②単元計画の工夫			
③ICTの活用			
(2) 工夫した点(例)			
①様々な工夫ができるような基になる動きを提示し、工夫したいもっとやりたいという思いにつながるようにした。			
②工夫した動きを撮影したり、紹介したりする時間を十分に確保するために、単			

元計画を「基の動きを試す時間→共有する時間」に設定し、試したり紹介したりできるようにした。

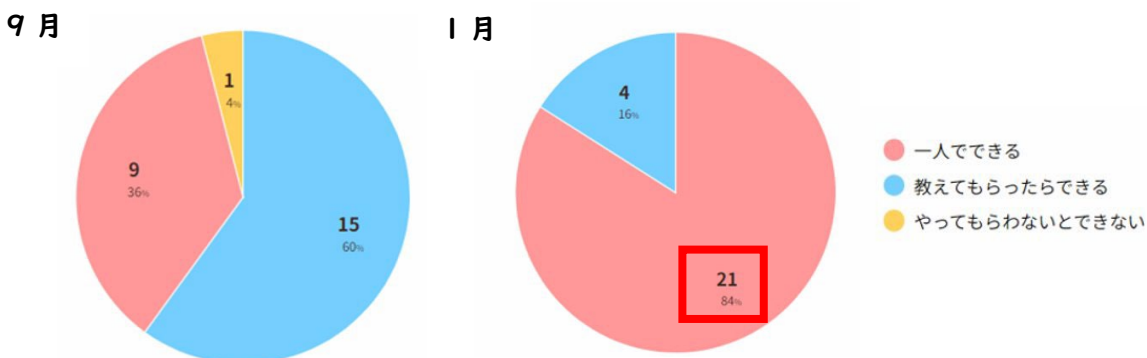
- ③タブレットでの共有方法を振り返りの場面だけではなく、撮った動画や見つけたポイントを常にロイロノートの提出箱へ提出し誰でも見たり真似したりできるようにした。
- ④どんな動きをやってみたいか、真似してみたいかをタブレットを見ながら話し合えるように回答共有を使えるようにした。

2. 変容（タブレットの活用能力について）

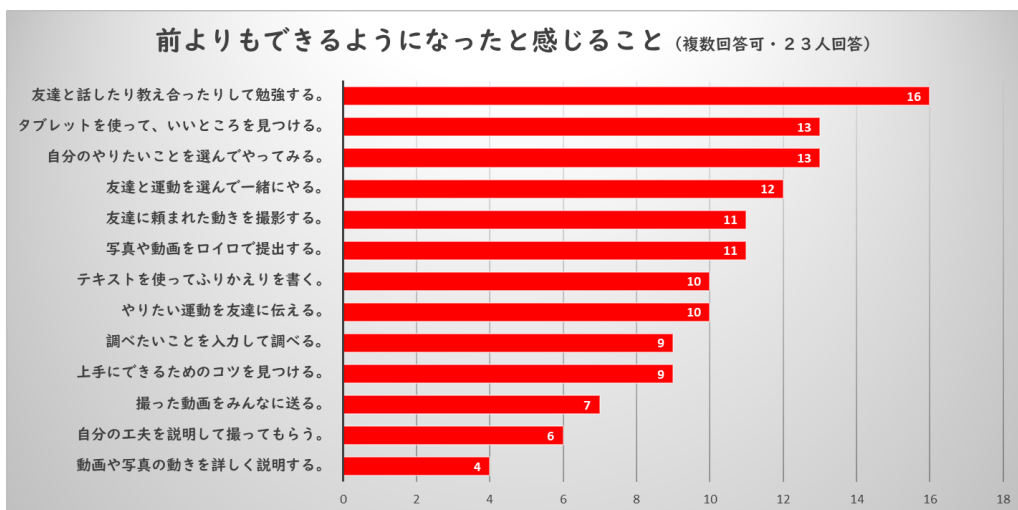
○友達にたのまれたことを撮影することが出来ますか。



○タブレットで送られた動画を学習に使うことが出来ますか。



9月と1月で結果を比べると一人でできるようになったと回答した児童が増えていることが分かる。



前よりもできるようになったと感じたことでは、「友達と教え合ったり話し合ったりして学習する」を選択した児童が16名に上った。16人に聞き取りを行うと「友達と話すのが楽しいからたくさん話すようになった。」「どうしようか迷ったときに、友達と相談するとうまくいった。」という話を聞くことができた。

3. 全体考察

○成果

- ・自分でやりたい動きを選んで工夫することは、個に応じた学びにつながっていた。
- ・元の動きから自分で工夫する動きがたくさん出ていた。
- ・グループで動画を撮影したり、他の動きを真似するために話し合ったりする様子が見られるようになった。
- ・単元計画や場の設定を工夫したことで、自分のやりたいこととグループでの活動の両方ができていた。
- ・動画で撮影したり、紹介したりする方法が身に付いた。

▲課題

- ・自分のやりたい思いをなかなか伝えられずに、友達のやりたいことに付き合ってしまう児童がいた。
- ・児童のやりたいという思いだけを拾ってしまうと、限られた場に集中してしまうことがあった。
- ・夢中になって動くことで、自分だけの動きになったりタブレットの管理など安全面での注意が必要だった。

第2学年 体育科学習指導案

令和5年12月6日 5校時
 浦添市立内間小学校
 2年1組 27名
 指導者 泉 愛

【年間指導計画 (2) 学年 (12) 月計画】

1 単元名 内間わくわくランドでレッツプレイ！ (多様な動きをつくる運動遊び)

2 単元の目標

- (1) 多様な動きをつくる運動遊びの行い方を知るとともに、体のバランスをとる動き、体を移動する動き、用具を操作する動き、力試しの動きをすることができるようにする。(知識及び運動)
- (2) 多様な動きをつくる運動遊びの遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。
(思考力,判断力,表現力等)
- (3) 多様な動きをつくる運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り誰とも仲良く運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。(学びに向かう力,人間性等)

3 単元について

(1) 運動の特性

【一般的特性】	【児童から見た特性】
・いろいろな器具・用具を使って、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、体の基本的な動きができるようになる運動遊びである。	・体を動かすと気持ちがいことや、力いっぱい動くと汗が出たり心臓がドキドキすることなど、運動することが自分の体の変化につながっていることに気付くことができる運動である。 ・友達との関わりの中で、自由な発想で遊び方を工夫したり、考えたことを友達に伝えたりすることができる運動である。

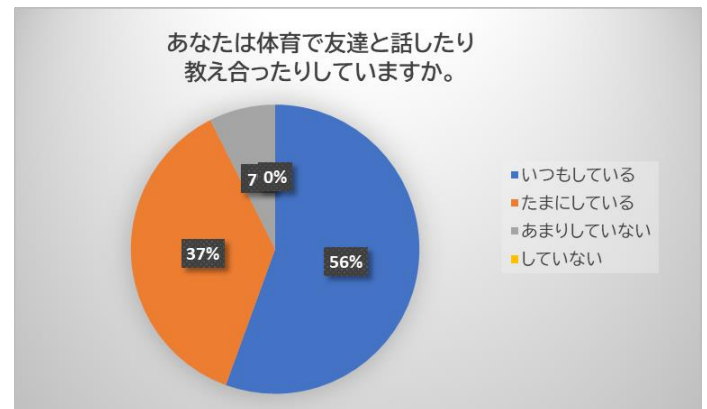
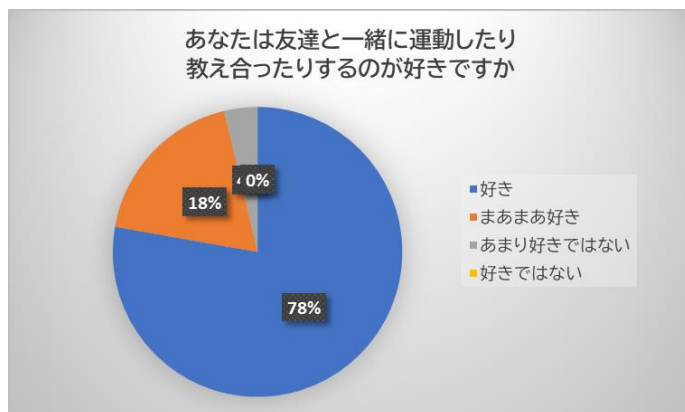
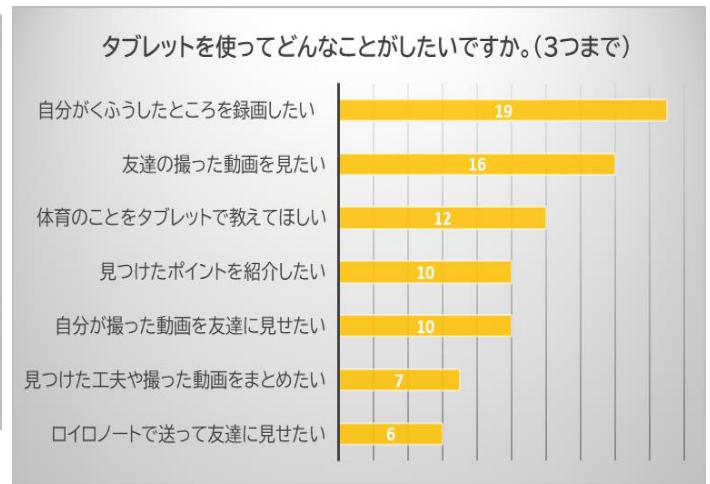
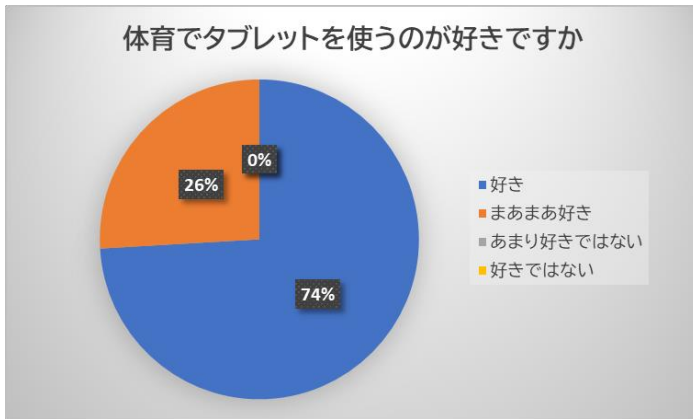
(2) 児童観

本学級の児童は、体を動かすのが好きで体育の時間に一生懸命取り組む児童が多い。タブレットを使った体育の学習については2年生になってからの取り組みであったが、マットを使った運動遊びでは、自分の取り組んだ技を紹介したり、友達の良い動きを見付けるために動画を撮ったり楽しんで活用している様子が見られた。また、友達と一緒に話したり見せ合ったりして運動する児童もいる反面、自分の動きだけに夢中になっていたり友達に声をかけられず一人で学習している児童も見られる。アンケートの結果から以下のことが分かった。

○アンケートの結果からタブレットを使うことは、児童にとって楽しいことで、体育の授業では自分のできたことや見つけたことを見てもらいたい、友達の撮った動画を見たいと考えている児童が半数に上ることが分かった。

○タブレットを使って学習する楽しさを感じている反面、それを使って友達と話したり教え合ったりすることまでは至っていないことがわかる。友達と学習することをあまり好きではないと回答している児童もいるため、タブレットを話し合いのツールとして使っていけるよう、2年生でできることを考えていく必要がある。

○ロイロノートを使って全員が「一人でできること」は写真や動画を提出することであった。送られた動画を学習に使うことや自分が見つけたことを紹介するやり方は60%の児童が一人でできると回答している。



(3) 指導観

体育の学習で、タブレットを使って自分の技の動画を撮影したりお手本となる動画を見て自分の動きと比べたりするといった活動はよく行われている。特に器械運動や陸上運動などでは多く使われるようになり、児童がタブレットを使う機会も増えている。そこで、今回は低学年の「多様な動きをつくる運動遊び」においても、自分で工夫した動きや友達と一緒に見つけた動きを動画で撮影したりポイントを共有したりする学習を行っていききたい。その際、今回のテーマである『ICT を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実』を目指していききたい。

今回の単元において、個別最適な学びを「自分が取り組みたい遊びを選択し、動きを工夫すること」と捉える。低学年で取り上げる4つの動きを2つずつに分け、元になる動きに取り組む。その後、もっとやりたい、上手になりたい、工夫してみたいなど自分の取り組みたい動きを選択し、人数や回数、距離、空間などを工夫していけるようにする。自分で見つけた動きをタブレットを使って撮影したり、ポイントを記録したりして活用していく。また、協働的な学びを「選んだ動きを一緒にやったり、見つけたポイントを伝えたりしてさらに動きを工夫していくこと」を行っていく。タブレットでの共有方法を振り返りの場面だけではなく、撮った動画や見つけたポイントを常にロイロノートの提出箱へ提出し誰でも見たり真似したりできるようにしていく。さらに、本校の先生を対象に行ったタブレットについてのアンケートでは、課題として「安全面からタブレットをどこに置いて学習するとよいのか」ということや「どのタイミングで使っていけばよいのか」といった疑問が挙がった。また、「見つけた工夫を児童が共有しながら学習を進めている授業を参観したい」という意見もいただいた。どの学年でもタブレットを活用し、児童が楽しんで取り組むことができる体育の学習を目指し、ICT の活用と共有方法の工夫などに取り組んでいきたい。

4 単元の指導と評価の計画(時間)

時間	1	2, 3	4	5, 6	⑦ (本時)	8, 9
0	<p>○あいさつ</p> <p>○準備運動</p> <p>○めあての確認</p>	<p>【パワーアップタイム】 ・リズム歩き ・ケンケン鬼 ・じゃんけん列車</p> <p>・バランスくずし(座って) ・人間コンパス ・エスケーター ・ポテトじゃけん ・ロープトレーニング</p>				
10	<p>○オリエンテーション</p> <p>・パワーアップタイム (感覚づくりの運動遊び)の取り組み方</p> <p>・場の移動の仕方</p> <p>・動きの約束の確認</p>	<p>○めあての確認</p> <p>動きを確認しながら運動を楽しむ。</p> <p>○チャレンジタイム1 (活動①) 一斉→個別</p> <p>・バランスをとる運動遊び</p>	<p>○めあての確認</p> <p>動きを確認しながら運動を楽しむ。</p> <p>○チャレンジタイム1 一斉→個別</p> <p>・用具を操作する運動遊び</p>	<p>○めあての確認</p> <p>動きを選び、工夫しながら運動を楽しむ。</p> <p>○チャレンジタイム1 個別・協働</p> <p>・用具を操作する運動遊びや力試しの運動遊びで動きを工夫したり競争したりして楽しむ。</p> <p>○キラタイム</p> <p>○チャレンジタイム2 一斉→個別</p> <p>・力試しの運動遊び</p>	<p>○めあての確認</p> <p>動きを選び、工夫しながら運動を楽しむ。</p> <p>○チャレンジタイム1 個別・協働</p> <p>・用具を操作する運動遊びや力試しの運動遊びで動きを工夫したり競争したりして楽しむ。</p> <p>○キラタイム</p> <p>○チャレンジタイム2 個別・協働</p> <p>友達と共有しながらタブレットで撮影していく。</p>	<p>○めあての確認</p> <p>4つの遊びの中から選んで行う。タブレットで撮影し共有していく。</p> <p>○チャレンジタイム1 協働</p> <p>動きのレパートリーを増やしたり動きのバリエーションを広げたりするために人数、姿勢、空間、距離、方向、時間などを変えてみる。</p> <p>○キラタイム 一斉</p> <p>○チャレンジタイム2 協働</p> <p>○ふりかえり</p>
20	<p>○キラタイム</p> <p>・自分で見付けた良い動きや楽しい動きなどを全体に共有することを伝える</p>	<p>○チャレンジタイム2 (活動②) 一斉→個別</p> <p>・体を移動させる運動遊び</p> <p>まねっこランナー</p> <p>ケンパー</p> <p>○ふりかえり</p>	<p>○めあての確認</p> <p>動きを選び、工夫しながら運動を楽しむ。</p> <p>○チャレンジタイム1 一斉</p> <p>・バランスをとる運動遊びや移動する運動遊びで動きを工夫したり競争したりして楽しむ。</p> <p>○キラタイム 一斉</p> <p>○チャレンジタイム2 個別・協働</p> <p>友達と共有しながらタブレットで撮影していく。</p>	<p>○チャレンジタイム1 一斉</p> <p>・用具を操作する運動遊び</p> <p>新聞を使って</p> <p>フラフープを使って</p> <p>○キラタイム 一斉</p> <p>○チャレンジタイム2 一斉→個別</p> <p>・力試しの運動遊び</p> <p>背中ずもう</p> <p>友達運び</p> <p>ひっぱりずもう</p> <p>○ふりかえり</p>	<p>○チャレンジタイム1 協働</p> <p>動きのレパートリーを増やしたり動きのバリエーションを広げたりするために人数、姿勢、空間、距離、方向、時間などを変えてみる。</p> <p>○キラタイム 一斉</p> <p>○チャレンジタイム2 協働</p> <p>○ふりかえり</p>	<p>○チャレンジタイム1 協働</p> <p>動きのレパートリーを増やしたり動きのバリエーションを広げたりするために人数、姿勢、空間、距離、方向、時間などを変えてみる。</p> <p>○キラタイム 一斉</p> <p>○チャレンジタイム2 協働</p> <p>○ふりかえり</p>
30	<p>○キラタイム</p> <p>・自分で見付けた良い動きや楽しい動きなどを全体に共有することを伝える</p>	<p>○ふりかえり</p>	<p>○めあての確認</p> <p>動きを選び、工夫しながら運動を楽しむ。</p> <p>○チャレンジタイム1 一斉</p> <p>・バランスをとる運動遊びや移動する運動遊びで動きを工夫したり競争したりして楽しむ。</p> <p>○キラタイム 一斉</p> <p>○チャレンジタイム2 個別・協働</p> <p>友達と共有しながらタブレットで撮影していく。</p>	<p>○チャレンジタイム1 一斉</p> <p>・用具を操作する運動遊び</p> <p>新聞を使って</p> <p>フラフープを使って</p> <p>○キラタイム 一斉</p> <p>○チャレンジタイム2 一斉→個別</p> <p>・力試しの運動遊び</p> <p>背中ずもう</p> <p>友達運び</p> <p>ひっぱりずもう</p> <p>○ふりかえり</p>	<p>○チャレンジタイム1 協働</p> <p>動きのレパートリーを増やしたり動きのバリエーションを広げたりするために人数、姿勢、空間、距離、方向、時間などを変えてみる。</p> <p>○キラタイム 一斉</p> <p>○チャレンジタイム2 協働</p> <p>○ふりかえり</p>	<p>○チャレンジタイム1 協働</p> <p>動きのレパートリーを増やしたり動きのバリエーションを広げたりするために人数、姿勢、空間、距離、方向、時間などを変えてみる。</p> <p>○キラタイム 一斉</p> <p>○チャレンジタイム2 協働</p> <p>○ふりかえり</p>
40	<p>○ふりかえり</p>	<p>②</p>	<p>○ふりかえり</p>	<p>○ふりかえり</p>	<p>○ふりかえり</p>	<p>○ふりかえり</p>
知 技				③		①
思 判 表			①		②	③
態 度	①	③		②		
評 価 の 重 点						

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・多様な動きをつくる運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、基本的な動きを身に付けている。	・多様な動きをつくる遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えている。	・運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り誰でも仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりしている
学習活動における具体的な評価規準		
① 多様な動きをつくる運動遊びの行い方について、言ったり実際に動いたりしている。 ② 体のバランスをとる動きや体を移動させる動きをしている。 ③ 用具を操作する動きや力試しの動きをしている。	① やってみたい運動遊びや、友達と一緒に行うと楽しい運動遊びを選んでいる。 ② より楽しく運動遊びができるように、行い方を工夫している。 ③ 友達の動きを見てよい動きを見付けたり、楽しい運動遊びの行い方を友達に伝えたりしている。	① 多様な動きをつくる運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ② 決まりを守り、誰とも仲良く運動しようとしている。 ③ 場の安全に気をつけ、準備や片付けを進んで行っている。

6 本時の学習【7/9時間】

(1) 目標

もっとやりたい動きを選び、行い方を工夫できるようにする。

(2) 本時の授業の工夫・手立て

- 児童が使いたい用具やもっとやってみたい動きを選択できるように前時までの動きをパワーアップタイムで取り入れる。
- 自分が見付けた動きや工夫した動き、友達と考えた動きをタブレットで録画し、いつでも共有できるようロイロノートを活用する。

(3) 展開

過程	学習活動	○指導上の留意点 ★予想される児童生徒の反応	評価規準 (評価方法)
導入 (10) 分	1, あいさつ 2, パワーアップタイム リズム歩き・ケンケン鬼・じゃんけん列車・人間コンパス・バランスくずし・ロープランニング・エレベーター・ポディーじゃんけん 3, めあての確認	○これまでに取り組んできたパワーアップタイムの内容を紹介しながら、児童が考えた動きを広めたり、良い動きをまねするよう声をかける。 ★エレベーターは5人でもできるよ。 ★ケンケン鬼は動ける場所を決めてやったよ。	
	やりたいうごきをえらんで、いろいろなくふうをしてみよう。		
	4, チャレンジタイム1 ・用具を操作する運動遊びや力試しの運動遊びで動きを工	○やりたい動きを選択させ、複数で動きを工夫できるようにその場でグルーピングする。	

<p>展開 (27)分</p>	<p>夫したり競争したりして楽しむ。</p> <p>新聞紙を使った動き フラフープを使った動き ボールを使った動き 友達はこび ひっぱりっこ</p> <p>5, キラリタイム</p> <p>6, チャレンジタイム2 もっとやりたい動きやキラリタイム で紹介された動きに取り組み、 自分でも工夫しながら動きを楽し む。</p>	<p>○「内間わくわくランド」でいろいろな動きを経験できるよ う、1つのうごきに偏らないよう促す。</p> <p>★新聞紙を使って2人で走るとおもしろいよ。 ★フラフープの中を通り抜けられたよ。 ★ボールをみんなでおなかにはさんで歩くときは強くおさな いとボールが落ちちゃうよ。</p> <p>○見つけた動きや気に入った動きをタブレットで録画す るように伝える。</p> <p>○児童が見つけた動きをポイントとともに紹介し、全体 共有できるようにする。紹介できなかった動きはロイロノー トで提出させ、誰でも見ることができるようにする。</p> <p>★○○さんの動きは人数が変わっているのに上手にでき ていたのでまねしてみたいです。</p> <p>○タブレットで工夫した動きを録画するよう声をかける。 ○タブレットの置き場所を確認し、安全面に気を付けさ せる。 ★友達と引っ張りっこをするときにすこししゃがむと強くな るよ。 ★タオルを使うと引っ張り合いがやりやすいよ。</p> <p>【「努力を要する」状況と判断される児童生徒への支援】 自分で選択するのが難しい児童には、友達をまねしてみ るよう声をかける。工夫した動きが難しい場合は、友達と グルーピングを行い、いっしょに活動させる。</p>	<p>【思・判・表】 概ね満足できる状 況 自分の取り組みたい 動きに取り組み、工 夫した動きを行って いる。(ロイロノート、 発言、観察)</p>
<p>終 末 (8)分</p>	<p>7, ふりかえり</p> <p>8, あいさつ</p>	<p>○自分の学習をふりかえり、うまくいったことや友達の動 きのよかったところを伝えさせる。</p>	

学校名	浦添市立 仲西中学校	報告者氏名	久我 秀徳
-----	------------	-------	-------

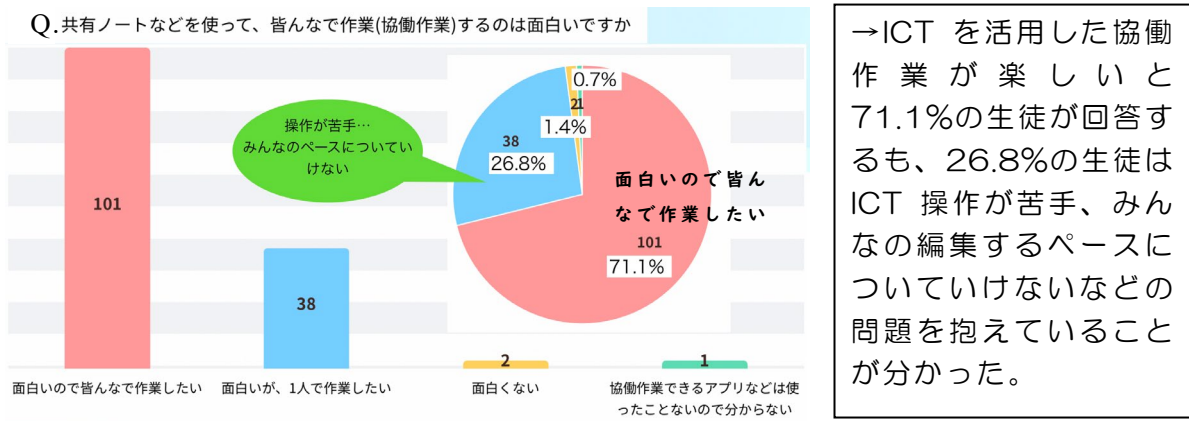
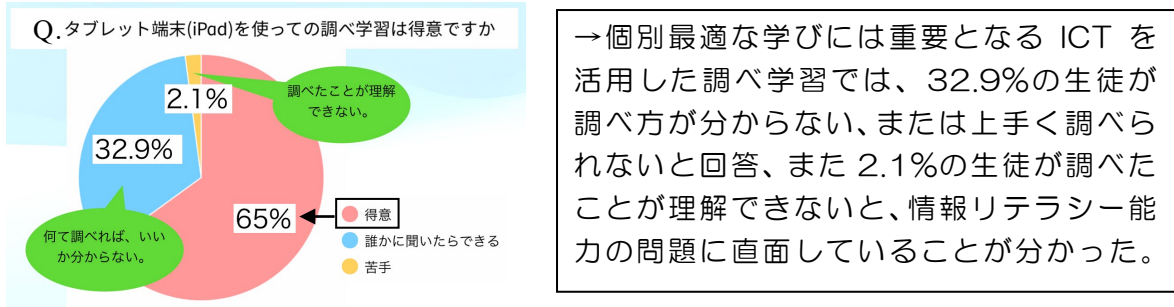
I 生徒の実態

1. 実施学年 1年

2. 生徒数 男子：17人 女子：19人 計：35人

3. 教科 理科

4. ICT を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に関する事前アンケートの結果と分析



II ICT を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に関する授業について

1. 内容

(1) 手だて

単元又は各章における、学習前の予習を ICT を使って協働編集させ発表させる。
～Before & After の Before における協働編集～

(2) 工夫した点

- ① 「～とは何だろうか。」という問いかけ（めあて）で統一することで、どの単元や章の導入部分でも対応できるようにしている。また、理科だけでなく、全教科で応用しやすいように授業を作成した。
- ② 個人で考える時間は紙媒体で行い、各自で考えたことを基に ICT を活用した調べ学習を行わせた。（個別最適な学び）
- ③ ロイロノートの共有ノート機能を使って、グループで役割分担を決め、協働編集を行わせた。（協働的な学び）

(3) 実践

実践方法

単元又は各章における、学習前の予習をICTを使って協働編集させ発表させる。

～Beforeの協働編集～

実践例

Step1

～とは何か。各自で考える。(紙媒体)

例: 音とは、何だろうか。
～音はどのような性質を持っているだろうか～



Step2

～とは何か。各自で調べる。(ICT)

「個別最適な学び」(ICT)



実践例

Step3

役割分担(グループ活動×ICT)

「個別最適な学び」&「協働的な学び」(ICT)

役割分担	
検索係1～2名	リーダー
リーダーの指示のもと、必要な情報を収集する。	司会/発表者
	発表シナリオ作成
編集サポート	編集者
調べた情報を編集者の指示に従って編集する。	調べた情報をまとめて、調べた情報をもとに、発表シナリオを作成し、発表する。

Step4

～とは何か。グループで調べ考える。(ICT)

例: 音とは、何だろうか。
～音はどのような性質を持っているだろうか～

Beforeの協働編集

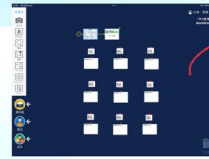
「協働的な学び」(ICT)



実践例

Step4

例: 音とは、何だろうか。
～音はどのような性質を持っているだろうか～



20分後

「個別最適な学び」&「協働的な学び」(ICT)

実践例

Step5

発表



Step6

評価および質問

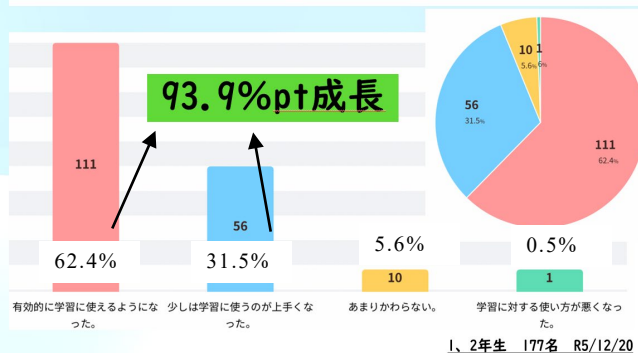
「個別最適な学び」&「協働的な学び」(ICT)



→単元や章の学習前に ICT (個々のタブレット端末) を活用した調べ学習を行うことで、興味・関心を今まで以上に高めることもねらいとしている。また、数値化しにくい調べ学習後の授業では、生徒の発言から、理解力が向上していることが授業をしていると多々感じられ、授業展開がよりスムーズになった。

2. 変容 (事後アンケートから)

4月と比べてタブレット端末を学習のために、使えるようになりましたか？



→本研究では、理科を主軸とし教科を問わず学校全体の活動として、積極的にICTを活用した。個々のタブレット端末を使った調べ学習や共有ノートによる協働編集、発表練習を行ったことで、93.9%ptの生徒がICTを活用した学習に成長を実感していることが分かった。残りの6.1%の生徒には個別のてだてが今後必要となってくる。

3. 全体考察

様々な事物・現象に関して疑問を持ち、深い学びにつなげていくためにも、個々における自由な調べ学習が今まで以上に必要となってきた。個々の力量差を解消させるためにも、個別最適な学びを実践していく必要がある。ICTを利用した学び方を学び、個々の学習により、得た情報や知識をもとに、協働編集を行うことで、楽しみながら教え合い学び合うことができたと考える。この活動を通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が成されたといえる。

理科

第1学年 理科学習指導案

令和5年11月29日(5)校時
仲西中学校 1年8組36名
指導者 久我 秀徳

【年間指導計画 1学年 11月 計画 P23】

1 単元名

単元3 身のまわりの現象 第2章 音の世界

2 単元(章)の目標

- (1) 音についての観察、実験を通して、音は物体が振動することによって生じ空気中などを伝わることや、音の高さや大きさは発音体の振動に関係することを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につける。(知識・技能)
- (2) 音について問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、音の性質の規則性や関係性を見だして表現する。(思考力・判断力・表現力)
- (3) 音に関する事物・現象に進んでかかわり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。(学びに向かう力・人間性等 → 主体的に学習に取り組む態度)

3 単元および章について

(1) 教材観

本単元は、小学校の「物質・エネルギー」をもとに、「光の世界」、「音の世界」、「力の世界」の3章で、1つの単元が構成されている。生徒は本単元において、中学校で初めて物理的な事物・事象についての観察、実験にとり組む。そこで、1章から3章まで、光、音、力など、感覚を通してとらえやすく日常生活や社会とのかかわりの深い事例を取り上げる。

本研究では、単元や章における事例を取り上げる際に、インターネットを使用した調べ学習を取り入れている。ICT(個々のタブレット端末)を活用した、調べ学習をすることで興味・関心を今までの学びかた以上に高めることをねらいとしている。調べ学習で得た知識や疑問をもとに、日々の授業で観察、実験を行い、科学的な資質・能力を養っていく。

本章(第2章)では、身のまわりで振動して音を出しているようすを確認できる物を集め、音の伝わり方や音を伝える物体、音が伝わる早さについて学習する。また、さまざまな楽器を観察して、音の大きさや高さを変えるしくみを調べ、そのときの物体の振動について考える。コンピューターや簡易オシロスコープを用いた実験を通して、音の大きさや高さや振動のようすと関係性を見いだすことをねらいとしている。

(2) 生徒観

これまで生徒は、本単元にかかわるものとして、次の内容について学習している。①光は集めたり反射させたりできること ②風やゴムの力で物を動かすことができること ③物には重さがあること(①～③ 小学校3年) ④閉じ込められた空気をおすと体積は小さくなり、体積が小さくなるに従い、押し返す力は大きくなること(小学校4年) ⑤てこの規則性(小学校6年)

日常生活では、スマートフォンをはじめ、音声・映像機器、照明機器・カメラなどを、無意識に、しかもたくみに使用しているが、光、音、力の性質やはたらきなどについて正しい知識はあまりない。生徒の中には、身のまわりの事物・現象に関して、データ上だけの知識が多く、物質に直接ふれたりする機会や、その性質や変化を調べたりする経験は少なくなってきた。

さらに、観察や実験には意欲的にとり組むが、測定値のとおりあつかい、実験結果の記録、グラフ化などのデータの処理、データからの規則性の発見、報告書の書き方などについては、未経験であることも少なからずある。そこで、持ち寄った情報や知識をもとに、協働編集を行うことで、楽しみながら教え合い学び合うことができると考える。この活動を通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が成されることをねらいとする。

(3) 指導観

様々な事物・現象に関して疑問を持ち、深い学びにつなげていくためにも、個々における自由な調べ学習が今まで以上に必要となってきたと考えられる（個の力量の差を解消させるためにも、個別最適な学びが必要となってくる）。

- ① 身近な事物・現象や協働して調べたことに対する不思議さや面白さに直接ふれさせるようにし、日常生活に見られる現象と結びつけて、身近な物理現象に対する興味・関心を高めるようにする。
- ② 日常生活との関わりが深く、直接体験が可能な物理現象を取り上げる。
- ③ 光と音に関する観察、実験を通して、それらの結果を図示して考察することなどによって、規則性を見いだす意欲や、身のまわりの現象と関連して調べようとする主体的な態度を身につけさせる。
- ④ 力の基礎的な性質やはたらきを学ぶとともに、力を図で表して考察する方法、グラフ化などの測定値の処理のしかたなどの、科学的な技能を習得させる。
- ⑤ 光の進み方や音の伝わり方、力のはたらきなど身近な現象に規則性があることを見いださせるとともに、ICT を活用したレポートの作成や発表などを適宜行わせ、思考力、表現力などを養う。
- ⑥ 観察・実験などの器具操作をしっかりと身につけさせるとともに、ICT を活用したレポートのかき方や結果の発表のしかたなどについても、丁寧に指導し、探究的な学習の基礎を学ばせる。
- ⑧ ロイロノート等のアプリケーションを活用し、個別最適な学びと協働的な学びを実践する。

4 単元（章）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
音に関する事物・現象を日常生活や社会と関連づけながら、音の性質についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	音について、問題を見いだし見通しをもって観察・実験などを行い、音の性質の関係性や規則性を見いだし表現しているなど、科学的に探究している。	音に関する事物・現象に進んでかかわり、見通しをもったりふり返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

5 単元の指導と評価の計画(7時間)

時数	主な学習活動	重点	評価規準と方法	十分満足できる生徒の評価例	努力を要する生徒への指導の手立て
1 本時 個別最適な学び・協働的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ・「Before&After」: Before の記入音とは何か、日常生活での経験などをもとに自分の考えを記述し、発表する。 ・音とは何か、ICT を活用し、共同編集作業を通して学び、協力して発表する。 ・音は、私たちの生活にどのように関わっているだろうか考え、まとめる。 	思・判・表	音とは何か、自分の考えをまとめ記入している。音とは何か調べる活動を行うなかで気づいたことや疑問に思ったことから、共通点や相違点をもとに、音が聞こえるという現象について問題を見いだし、表現している。 [発言分析・行動観察]	音とは何か調べ、協働編集に参加できる。音とは何か調べ、音が出ているときの物体のようすから、音は物体の振動によって生じることを見いだし、適切に表現している。	音とは何か調べる活動において、ほかの生徒の気づいたことや疑問点の発表を聞いたうえで、再度活動を行わせることで、音は物体の振動によって生じることを見いだし、適切に表現している。
2 個別最適な学び・協働的な学び	第1節 音の伝わり方 ・「レッツ スタート！」身のまわりの物体で、振動して音を出しているようすを確認できるものを集め、体験する。そのなかで、音が出ている物体の共通点を自分の言葉で表現する。 ・振動している物体から出ている音は、どのように伝わるだろうか。 ・物体が振動して音を出していることについて説明を聞き、まとめる。 ・音が伝わるしくみについて考え、話し合う。	思・判・表	身のまわりの物体を使って音が出ている物体のようすを調べる活動を行うなかで気づいたことや疑問に思ったことから、共通点や相違点をもとに、音が聞こえるという現象について問題を見いだし、表現している。 [発言分析・行動観察]	身のまわりの音が出ている物体について調べ、音が出ているときの物体のようすから、音は物体の振動によって生じることを見いだし、適切に表現している。	音が出ているときの物体のようすを調べる活動において、ほかの生徒の気づいたことや疑問点の発表を聞いたうえで、再度活動を行わせることで、音は物体の振動によって生じることを見いだし、適切に表現している。
3	・「調べて考察しよう」P.164 図2のようにおんさの間に板を置くと、伝わる音が	思・	音はどのような経路で伝わるかについて、おん	音を伝えている物体に気づくことができ、	糸電話の糸が切れると声が聞こえなくなる現象

<p>個別最適な学び</p>	<p>どうなるか予想し、確認する。 ・P.164 図2やP.165 図3から、空気が振動して音を伝えているのを見いだす。 ・P.165 図3～図6を参考にして、音の伝わり方と音を伝える物体についての説明を聞く。 ・「課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。</p>	<p>判・表</p>	<p>さを正しく使いながら調べ、得られた結果から音の伝わり方を考察し、より妥当な考えをつくり出して表現している。 [発言分析・行動観察]</p>	<p>空気であったり糸電話の糸であったり、何らかの物体がないと音は伝わらないことを適切に表現している。</p>	<p>と、真空鐘の中の空気が少なくなると音が聞こえづらくなる現象を比較して考えるよう助言・指導する。</p>
<p>4 個別最適な学び</p>	<p>第2節 音の性質 ・「レッツ スタート！」さまざまな楽器を観察して、音の大きさや音の高さを変えるしくみを調べ、そのときの物体の振動について考えを話し合い、発表する。 ・「課題」音の大きさや高さや音源の振動には、どのような関係があるだろうか。 【実験4】弦の振動による音の大きさと高さ ・実験4を行い、音の大きさや高さや物体の振動との関係を調べる。 ・「基礎操作」簡易オシロスコープの使い方を確認する。 ・簡易オシロスコープを使っていろいろな音の波形を記録する（おんさ、ギター、モノコード、そのほかの音を出す物、それを録音した音など）</p>	<p>知・技</p>	<p>弦をはじく強さや弦の長さ、張りや音の大きさ、高さの関係について、簡易オシロスコープを正しく扱いながら調べ、得られた結果を記録している。 [記述分析・行動観察]</p>	<p>モノコードやギターの弦をはじく強さや弦の長さ、弦の張りの強さを変えるなど、条件制御しながら実験を行っている。また、実験結果のちがいをそれらの条件と関係づけて適切に記録している。</p>	<p>弦をはじく強さや弦の長さ、弦の張りの条件について、整理のしかたを説明する。その際、変える要素と変えない要素に注目して考えるよう助言・指導する。</p>
<p>5 協働的な学び</p>	<p>・簡易オシロスコープを用いて、その波形から音の大きさや音の高さと振動のようすとの関係について確認する。 ・実験結果やP.168 図1～3を参考にして、音の大きさと振幅、音の高さと振動数との関係を見だし、発表する。 ・実際の音と録音した音の波形のちがいをもとに、その原因を推測する。 ・「課題に対する結論を表現しよう」自分の考えをまとめ、確認する。</p>	<p>思・判・表</p>	<p>実験結果をもとに、音の大きさ、高さや弦の振動のようすとの関係について考察し、より妥当な考えをつくり出して表現している。 [発言分析・記述分析]</p>	<p>簡易オシロスコープを使い、大きい音と小さい音、高い音と低い音のちがいを見だし、共通点や相違点を波形を用いて表現している。</p>	<p>大きい音と小さい音のちがいについて、たいこなどの膜のふれはばで考えるよう助言・指導する。また、高い音と低い音のちがいについて、簡易オシロスコープの波形を重ね合わせて比べて考えるよう助言・指導する。</p>
<p>6 個別最適な学び</p>	<p>・「予想しよう」P.169 図4や「どこでも科学」を参考にして、音が伝わる速さについて考える。 ・P.169「つながる科学」を読んで、デシベル（単位）と環境基準について考える。 ・「学びをいかして考えよう」について考える。 ・P.170「つながる科学」を読んで、動物の種類によって音の聞こえる振動数の範囲は異なり、超音波は水中で生活している生物が利用していることを確認する。 ・「学んだことをチェックしよう」各節で学んだことを確認する。</p>	<p>態</p>	<p>光と音の速さのちがいについて自然現象から気づき、いなく見えてから音が聞こえるまでの時間をはかることで大まかな距離がわかることについて、ねばり強く考えようとしている。 [記述分析・行動観察]</p>	<p>音と光の進む速さのちがいから、いなく見えてから音が聞こえるまでの時間には差があることに気づき、その時間をもとに距離を計算している。また、身のまわりの音についての疑問に対して説明しようと試行錯誤している。</p>	<p>音に比べて光の方がはるかに速いことを確認する。そのうえで音の速さに注目して、「距離＝速さ×時間」で音源までの大まかな距離を求めることができると、音の速さは約340m/sと考えるよいことなどを助言・指導する。</p>
<p>7 個別最適な学び・協働的な学び</p>	<p>・「学んだことをつなげよう」各節で学んだことを確認して、考えたことをノートやロイロノートのカード等に記述し、話し合う。 ・「Before & After」: Afterの記入 この章で学んだことをもとに自分の考えを記述し、話し合う。 ・音とは何か、ICTを活用し、共同編集作業を通して学び、協力して発表する。 ・音は、私たちの生活にどのように関わっているだろうか考え、まとめる。</p>	<p>思・判・表</p>	<p>音とは何か、個々で調べる活動や協働編集、各節で学ぶなかで気づいたことや疑問に思ったことから、共通点や相違点をもとに、音が聞こえるという現象や音の性質について説明できる。 [発言分析・行動観察]</p>	<p>音とは何か、個々で調べ、まとめ、協働編集に参加できる。 音が聞こえるという現象や音の性質について適切に表現している。</p>	<p>音とは何か、個々で調べる活動や協働編集、各節で学ぶなかで気づいたことや疑問に思ったことから、共通点や相違点をもとに、音が聞こえるという現象や音の性質についてまとめられるよう助言・指導する。</p>

6 本時の学習【1/7時間】

(1) 目標 (ねらい)

音とは何か、協働的に調べ探究することで、視点を持って学習していくことができるようになる。

(2) 本時の授業の工夫・手立て

- ① ロイロノート（各自で、ネット検索を主とした調べ学習）・・・個別最適な学び
- ② グループ作業（共有ノートの使用）・・・対話的・協働的で深い学び

↑役割分担：発表者（司会）、発表シート編集者、ネット検索係、編集サポート係

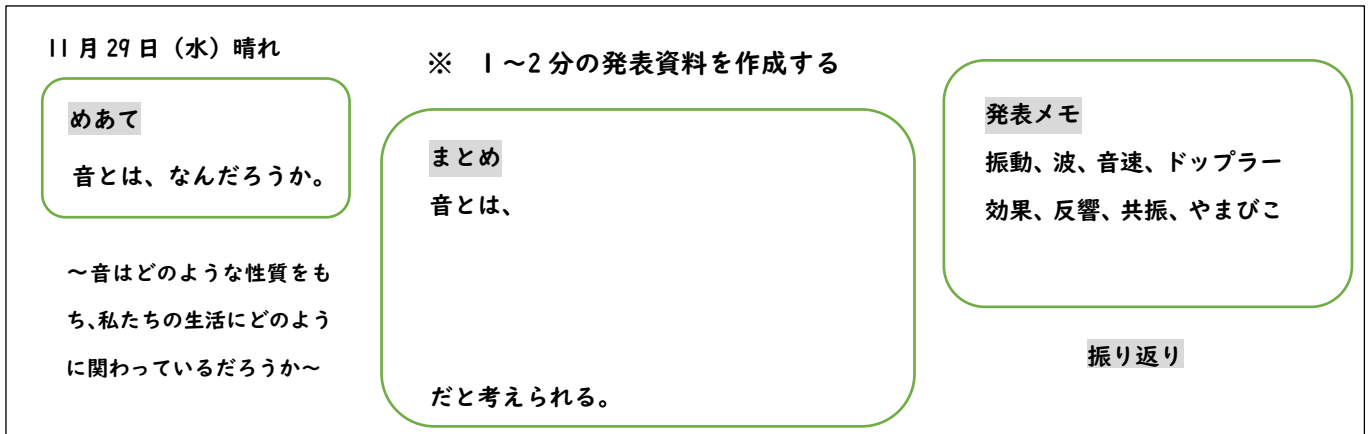
(3) 展開

過程	学習活動	○指導上の留意点 ★予想される児童生徒の反応	評価規準 (評価方法)	
導入 (3)分	1 ノンバーバルゲーム 目を閉じているのになぜ、ものまねができるのか。	・見て、ものまね ・目をつむって、ものまね → ★音があるから、耳があるから	・ゲームに参加することができる。	
展開 (40)分	2 めあて (2分) 音とは、何だろうか。 ～音はどのような性質を持ち、私たちの生活にどのように関わっているだろうか～		・自分の考えを記入することができる。 ・発表することができる。	
	3 自己評価カード (3分)	各自で Before&After シートの記入	概ね満足できる状況 ・グループで協力し、めあてにそって、発表シートを作成することができる。	
	4 調べ学習 (5分)	各自で音とは何か ICT 教科書を使って調べ学習。		
	5 グループ作業 → 共有ノートの使用	役割分担：発表者、発表シート操作係、ネット検索係、編集サポート係		
	6 役割分担の確認 (2分)	○ 電子黒板にて協働編集画面のモニターチェックや机間指導をしながら ICT が適切に使用されているか確認する。		
	7 検索および編集 (18分)	【「努力を要する」状況と判断される児童生徒への支援】		
	8 最終確認及び提出 (2分)	・iPad の操作方法（共有ノートの使用） ・検索方法（検索のキーワードを提示）		
	9 発表 (8分)	発表 1～2グループ		
	終末 (7)分	10 まとめ (3分) 例：音とは、物体が振動することで発生し、様々な物質を振動させ、波のように伝わっていく。人はその振動の波を耳で受け取り、鼓膜、耳小骨を振動させ感覚神経に伝え聞くことができる。日常会話や音楽をはじめ様々な所で音は使われている。		↓板書の写真を撮ってシェアする。↓
11 振り返り (4分) 振り返りの視点↓ 視点①（深める）→ これまでの学習をどのようにいかせたか。 視点②（深める）→ 自分と他の人の考えを比較して分かったこと。 視点③（広げる）→ 疑問に感じたこと、調べてみたいこと。 視点④（広げる）→ 身のまわりと関係づけて考えたこと。（現象・生活・活用・利用）		↑授業を通して見つけた新たな発見や疑問、習得した能力について、まとめる。まとめは生徒の発表内容によって変わる。		

7 本時の評価の「おおむね満足できる」状況の具体例

- ① タブレット端末を使って必要な情報を個々に調べ、編集することができる。(個別最適な学び)
- ② 共有ノートを使って、めあてにそった発表資料作成に参画することが出来る。(協働的な学び)
- ③ 各自、知らない情報は協力して調べ、情報共有することができる。(個別最適な学び・協働的な学び)
- ④ 集めた情報を処理し、発表資料をまとめることができる。(個別最適な学び・協働的な学び)

8 板書計画



- ・「場の設定」・・・ 理科室 (全体説明終了後、グループにて役割分担をし、協働編集を行う。)
- ・「準備物」・・・ タブレット端末 (iPad) 1人1台、ロイロノートの設定 (共有ノート)、電子黒板、自己評価票

9 ロイロノート (共有ノート) 計画

授業の全体説明中は、通常ノートにて説明を行う。クラスの状況に応じて、画面配信を行い説明をする。説明終了後、共有ノートに切り替える。電子黒板にてモニターを行う。

共有ノートでは各グループ活動場所はピン留めしたカードを中心にわせる。

机間指導をしながら、ICTが適切に使用されているか確認する。

役割分担

検索係1~2名 リーダーの指示のもと、必要な情報を収集する。 編集サポート 調べた情報を編集者の指示に従って編集する。	リーダー 司会/発表者 発表シナリオ作成 編集者 図や写真を使って、調べた情報をまとめる。 発表データを提出Boxに提出する。
--	--

音とは、何だろうか。
～音はどのような性質を持っているだろうか～

Beforeの協働編集

提出 BOX は前もって準備をしておく。

学校名	浦添市立 神森中学校	報告者氏名	根間 浩史
I 児童生徒の実態			
<p>1. 実施学年 第1学年</p> <p>2. 児童数 男子： 17人 女子： 15人 計： 32人</p> <p>3. 教科 特別活動</p> <p>4. 第1回 児童生徒質問紙 (i-check) の結果と分析</p> <p>第1回 児童生徒質問紙 (i-check) の結果より、全国平均と比べて、本学級の課題のあるカテゴリーは、「友だちのささえ」「感動体験」「他者からの評価」「規範意識」「思いやり (人間関係構築)」「発信力」「社会参画」「学習習慣」「学習意欲」である。本学級は、ほとんどの生徒が何事にも一生懸命に取り組む姿勢がある。個性的な生徒が多く、少し規範意識が低い、「学級の絆」、「対話・話し合い」の項目が高いので、学級での協働した取り組みから、お互い認め合い、高め合う雰囲気をつくり上記の課題の改善を検討する。</p>			
II 児童生徒質問紙 (i-check) を活用した特別活動の実践			
<p>1. (1)手だて</p> <p>①ライフスキル教育を9～10月に定期的実践</p> <p>※ライフスキル教育とは特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラムが実施している教育 (ライオンズクエストプログラム) であり、子どもたちが自己コントロールスキルや対人関係スキルについて学び、練習し、さらに学校、家庭、地域で繰り返し活用することによって、スキルを「わかる」で終わらず、「できる」状態にまで引き上げる学習である。</p> <p>②ペア学習やグループ活動がうまく機能するための座席の配置</p> <p>③振り返りにおいて、今後想定されるあらゆる場面での対応を考えさせる。</p>			
			
<p>(2). 工夫した点</p> <p>①各授業の導入でエナジージャー (短時間のリズム遊びや思考が必要なゲーム等) を行い、意見の主張や話し合い活動に取り組みやすい雰囲気をつくった。</p> <p>②グループ活動において役割を設定し、円滑に練り合いや発表ができるようにした。</p>			
<p>2. 変容 (第2回 児童生徒質問紙 (i-check) の結果と分析)</p> <p>第1回と第2回を比べ、本学級が特に大きく上昇した項目は「他者からの評価」と「学級の絆」であり、1学年 (全体) でもこの2つは上昇してはいるが、本学級での上昇率は、特に大</p>			

きい（図1）。定期的に実施したライフスキルトレーニングにおいて、構成的グループエンカウンターやエナジージャー等により、学級での協働した取り組みが生まれ、お互い認め合い、高め合う雰囲気がより強くなったと考えられる。

本学級

1学年(全体)

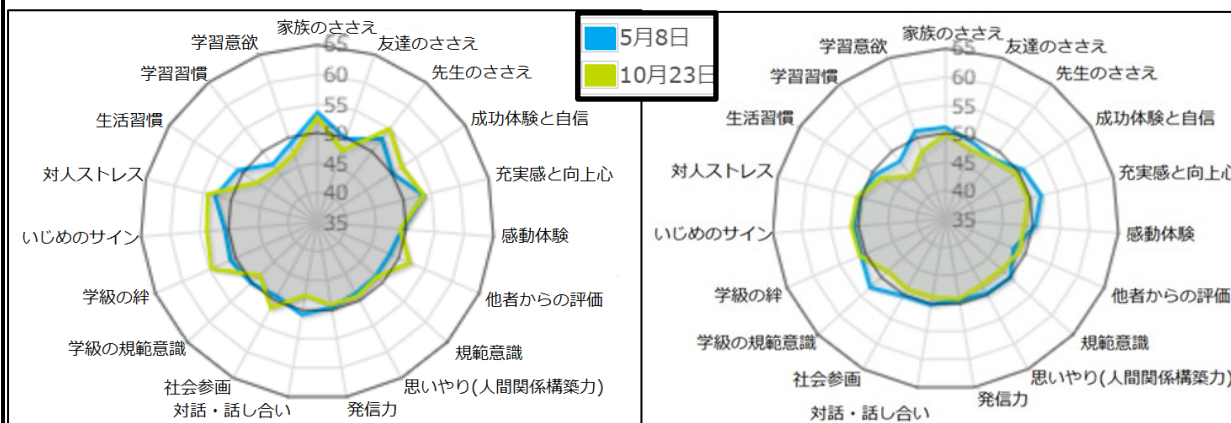


図1 第2回児童生徒質問紙(i-check) 本学級と1学年(全体)カテゴリー別, レーダーチャート

3. 全体考察

約2か月間、ライフスキルトレーニングによる『日常に起こると想定されることの対応を学ぶ授業』や自己のスキル向上の授業の実施により自己コントロールスキルや対人関係スキルを高める学習や繰り返し練習が行われたことにより、「規範意識」「社会参画」「対人ストレス」の項目が上昇したと考えられる。11月の学級の状況は、授業で安心して発表や発言ができる雰囲気があり意見の主張や他者に対するの賞賛が増えている。給食準備や清掃活動は協力する雰囲気が高まっており時間内に終わらせることが増えてきた。ただ、人間関係のトラブルや授業中の私語が減少していない。引き続きライフスキルトレーニングによる自己コントロールスキルや対人関係スキルを高める学習や繰り返し練習で規範意識を高める必要がある。

上記に述べた変容や全体考察は約2か月程度行ったライオンズクエストプログラムのライフスキルトレーニングの効果が全てとはいえないと考える。数値には、普段の学級活動の取り組み、学校行事における生徒会の取り組み、担任の学級経営力等、様々な要素が関係する。この時期は学級会、生徒会の行事が頻繁に行われており、協働した姿が多くみられた。このことから数値の上昇は、ライフスキル教育とその他の特別活動の相乗効果がつくりだしたと考えられる。



特別活動 学級活動(2) 指導案

第1学年6組 学級活動(2) 指導案

令和5年10月16日(月) 第5校時

指導者 教諭 根間 浩史

年間指導計画第1学年10月題材 学級活動(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

- 1 題材** 「学習の仲間からの好ましくない圧力に立ち向かうための3つのステップを学習し、練習しよう。」
 学級活動(2) ア 自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成
 自他の個性を理解して尊重し、互いのよさや可能性を発揮しながらよりよい集団生活をつくること。

2 題材について

(1) 生徒の実態

本学級は、明るく素直な生徒が多く、授業中の発表やグループ活動では意欲的に発言し、積極的に取り組む生徒が多い。学校行事に関しては、まとまりに欠けるが一生懸命に取り組む姿勢がよく見られる。10/4(水)に行われた合唱コンクールでは、全員が真剣な眼差しをしており、大きな声で歌うだけでなく、ハーモニーを奏で練習の成果を発揮した。入賞には及ばなかったが、生徒にとっては満足いく内容であった。

8/28(月)に実施した“合唱コンクールを成功させよう アンケート”では「クラスの課題は何ですか」という質問に対して「けじめがない」「授業中騒がしい」「自分の役割を果たしていない」「けんかが多い」という意見が多く、まとまりが悪いという課題意識がある。

その課題解決のため9/1(金)に“合唱コンクールを成功させよう”という議題で学級会を行い、練習方法やその日程、一人一役の内容を決め、約1か月練習等に取り組んだ。それぞれの意見の食い違いや、練習に対してやる気の差が原因で、うまくいかない時期もあったが、パートリーダーや学級担任の働きかけにより、合唱コンクール一週間前には、団結し本番では満足いく内容だった。

個性的な生徒が多く、少し規範意識が低いだが、何事にも積極的に取り組む姿勢があるので、児童生徒質問紙(i-check)の結果・分析から見える課題の克服、個に応じた教師の手立て、学級で協働し取り組む場の設定等から、お互い認め合い、高め合う雰囲気をつくりたい。

(2) 題材選定の理由

図1は5月に行った第1回児童生徒質問紙(i-check)の結果であり、クラス全体のカテゴリー別の結果を、レーダーチャートで表したものである。全国平均を50とし、相対的な状況を標準スコア(偏差値)を用いて表している。

全国平均と比べて、課題のあるカテゴリーは、「友だちのささえ」「感動体験」「他者からの評価」「規範意識」「思いやり(人間関係構築)」「発信力」「社会参画」「学習習慣」「学習意欲」である。

「成功体験と自信」のカテゴリーが高く、学級・学校行事では様々な意見が出されるが、リーダーがそれをまとめるのに苦労する場面が多くみられる。個

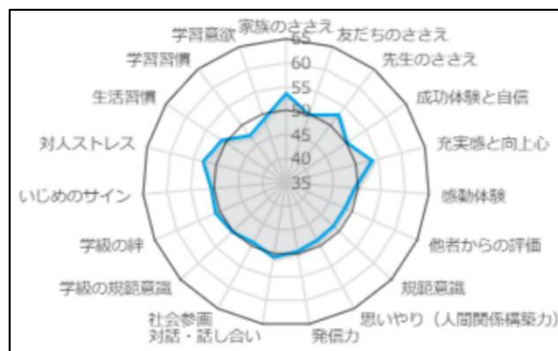


図1 第1回児童生徒質問紙(i-check) 1年6組カテゴリー別、レーダーチャート

性的な生徒が多く、少し規範意識が低い、「学級の絆」、「対話・話し合い」の項目が高いので、学級での協働した取り組みから、お互い認め合い、高め合う雰囲気をつくり上記の課題を改善したい。

3 学級活動(2)評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
<p>自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解している。</p> <p>適切な意思決定を行い実践し続けていくために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。</p>	<p>自己の生活や学習への適応及び自己の成長に関する課題を見いだしている。</p> <p>多様な意見をもとに自ら意思決定して実践している。</p>	<p>他者への尊重と思いやりを深めてよりよい人間関係を形成しようとしている。</p> <p>他者と協働して自己の生活上の課題解決に向けて、見通しをもったり振り返ったりしながら、悩みや葛藤を乗り越え取り組もうとしている。</p>

4 事前の指導

生徒の活動	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿 【観点】〈評価方法〉
<p>ライフスキルトレーニングの授業①(ライオンズクエスト篠田先生を講師に招いての授業)</p> <p>授業内容：上手な聞き方を身につける。(社会的発達・みんなと生きる力を伸ばす) (9/5 学級活動)</p>	<p>相手を尊重し、よい人間関係を築くことができるように指導する。</p> <p>今後、上手な聞き方を日常生活で生かせるようにする。</p>	<p>◎相手を尊重し、よい人間関係を築こうとしている。</p> <p>学んだスキルを日常生活で生かそうとしている。</p> <p>【主体的態度】 〈学校生活の過ごし方〉</p>
<p>ミニライフスキルトレーニング (9/13～10/ 週3回10分程度)</p>	<p>実践したトレーニングが日常生活のどの部分で生かせるかを考えさせる。</p>	
<p>ライフスキルトレーニングの授業②(副担任：根間浩史) (9/28 学級活動)</p>	<p>自己理解を深め、自他を尊重し、よい人間関係を築くことができるように指導する。</p> <p>今後、他者との関わり方を日常生活で生かせるようにする。</p>	
<p>ライフスキルトレーニングの授業③(担任：崎原りこ教諭)</p> <p>授業内容：みんなでインタビューシート(社会的発達・みんなと生きる力を伸ばす) (10/11 学級活動)</p>	<p>相手を尊重し、よい人間関係を築くことができるように指導する。</p> <p>今後、上手な会話を日常生活で生かせるようにする。</p>	

5 本時のねらい

仲間からの好ましくない圧力に立ち向かうための3つのステップを練習し、今後の日常生活で生かそうとする態度を養う。

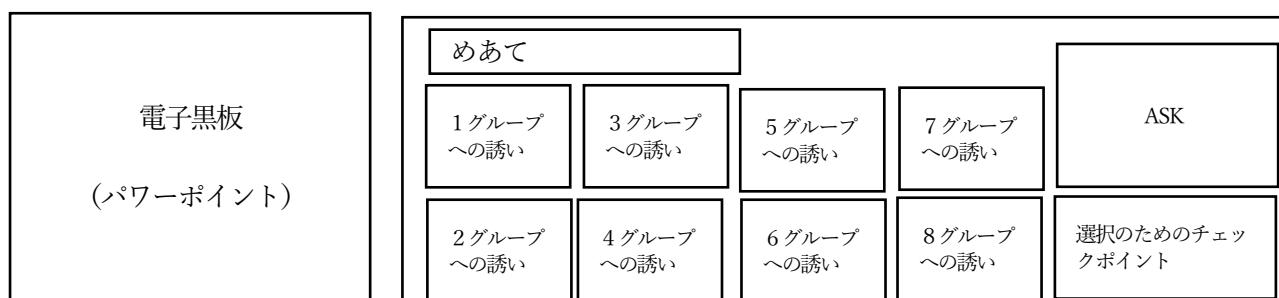
6 本時の展開

	生徒の活動	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿 【観点】〈評価方法〉
導入 つかむ 15分	<ul style="list-style-type: none"> ・エナジャイザー ・今日の言葉を紹介し意味を問う 「その人が利口かどうかは、その人の答えでわかる。その人が賢いかどうかは、その人の質問でわかる。」 ナギーブ・マフフーズ 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手が何を提案しているのかを確認するために、いくつかの質問をすることが必要なときもあることを押さえる。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間の提案が好ましいものと好ましくないものを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・このましい仲間の圧力か、好ましくない仲間の圧力かを考えさせる。 	
めあて 仲間からの好ましくない圧力に立ち向かうための3つのステップを学習し、練習しよう。			
展開 さぐる 15分 見つける 15分	<ul style="list-style-type: none"> ・ASKの3つのステップを理解する。 ・4人グループでASKのステップを計画する。 ・4人グループでASKのステップを練習する。 ・各グループの実践。3～4グループ程度発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・A: Ask 質問する S: Stand up for yourself 好ましくない圧力に対し立ち向かう K: Know 好ましい選択が他にあることを知る (2名代表で教師とロールプレイを行う) ・各グループにお題を選択させる。 ・4人グループでワークシートを記入させる。 ・それぞれの役割をもとに各グループで練習する。 	<p>◎自分事として捉え、クラスの仲間を尊重し、協力しながら実践しようとし、今後、日常生活で生かそうとしている。</p> <p>【主体的態度】 〈ワークシート、観察〉</p>
終末 決める 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを記入する。 ・教師の話 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、どのような場面でASKのステップを使いますか。 ・好ましい選択を拒否された場合、どのような対処ができるか。 	

7 事後の指導

生徒の活動	指導上の留意点	◎目指す生徒の姿 【観点】〈評価方法〉
振り返りをする。 (10/25 学級活動)	相手を尊重し、関わっているか確認する。 ライフスキルトレーニングで学んだことを日常生活で生かそうとしているか確認する。	学んだスキルを日常生活で生かそうとしている。 【主体的態度】 〈振り返りシート〉

8 板書計画



《参考・引用文献》

『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説特別活動編』（文部科学省 2017 年）

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 特別活動』

（文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター 2020 年）